

施工計画書作成の手引き

(営繕工事編)

令和 2年 4月

佐世保市 契約監理室 技術監理課

はじめに

施工計画書は、受注者がそれぞれの工事において、品質確保のために実際に施工することを具体的に記載し、そのとおりに施工することを約束するもので、工事の施工や施工管理の最も基本となるものです。

受注者は、まず工事の契約書、設計図書などを十分に理解し、現場条件を調査・検討すると共に自らの施工経験に基づき各々の工事の施工計画書を作成します。

品質の優れた建築物等を完成させるためには、工事の施工方法、工程・品質管理、安全・環境対策、現場組織などの管理計画、工事施工のために必要な計画を網羅した施工計画に基づく施工管理が必要となります。

しかし、現状では、個別の工事について具体的に検討することなく、どの工事にも共通的に利用できるように便宜的に作成されたものを多く見かけます。また、施工プロセスチェックにおいても施工計画の不備が一部指摘されています。

特に品質計画においては、公共建築工事標準仕様書に規定されている「基本要求品質」を満足するように品質管理や出来形管理の管理基準等を施工計画書の中で定め、設計変更になる場合も含めて、監督員はこれを検討・調整して承諾する必要があります。

受注者としては、施工計画書の記述の明確化が求められており、佐世保市発注工事における施工計画書を作成する際の参考として本手引きを利用して頂けるよう考慮しています。また、記載の内容等について、現場での施工に即した計画となるように、積極的な追加又は修正及び訂正をして作成頂きたいと考えています。

一方、発注者には内容の正確な把握が求められていることから、受注者により作成・提出された施工計画書をチェックする際に、監督員として留意すべき事項や総合施工計画書・工種別施工計画書の作成例を参考に照査するときのポイントを示したものです。

なお、長崎県土木部の「施工計画書の手引き」をもとに、さらに他自治体のHPの資料も参考にして、佐世保市の「施工計画書の手引き（営繕工事編）」を受注者及び発注者用に作成しています。各自が受発注した工事の現場管理等を行う上で、活用していただき、営繕工事における品質向上を図ることで、両者の技術力も向上されるものと期待しています。

目次

§ 1 施工計画書作成及び本手引きの目的	4
§ 2 施工計画書作成の留意事項	4
§ 3 総合施工計画書	4
§ 4 総合施工計画書作成要領	6
工事概要、計画工程表、現場組織表、施工体系図等	
§ 5 工種別施工計画書	22
§ 6 工種別施工計画書作成要領	23
1. 仮設工事	23
2. 解体工事	24
3. 土工事【根切り及び埋戻し】【山留め】	26
4. 地業工事【既製コンクリート杭】【場所打ちコンクリート杭】【砂利・砂・捨コンクリート地業等】	27
5. 鉄筋工事【鉄筋】【ガス圧接】	28
6. コンクリート工事【コンクリート】【型枠】	29
7. 鉄骨工事【鉄骨】【工作図】	30
8. コンクリートブロック・ALCパネル・押出成形セメント板工事 【補強CB、CB】【ALCパネル】【押出成形セメント板】	32
9. 防水工事【アスファルト防水・改質アスファルトシート】 【合成高分子ルーフィングシート防水】【塗膜防水】【シーリング】	33 34
10. タイル工事	36
11. 木工事	36
12. 屋根及びとい工事【長尺金属板葺、折板葺】【とい】	37
13. 金属工事【軽量鉄骨下地】	38
14. 左官工事【モルタル・セルフレベリング材・せっこうブラスター塗及びロックウール吹付け】 【床コンクリート直均し仕上げ】【仕上塗材仕上げ】	38
15. 建具工事【アルミニウム製建具・鋼製建具・鋼製軽量建具・ステンレス製建具】【木製建具】 【重量・軽量シャッター】	40
16. 塗装工事	42
17. 内装工事【ビニル床シート・ビニル床タイル・ゴム床タイル張り】【70-リッパ張り】【カーペット敷き】 【合成樹脂塗り床】【畳敷き】【せっこうボード・その他ボード・合板張り】【壁紙張り 断熱・防露】	//
18. ユニット及びその他工事	46
19. 各種メーカー仕様工事	//
20. 排水・舗装工事	47
21. 改修工事【防水改修 外壁改修 建具改修 内装改修 塗装改修 あと施工アンカー】	48
22. 電気設備工事【電力設備工事】【受変電設備】【通信・情報設備】	51
23. 機械設備工事【配管】【空気調和設備】【自動制御設備】【給排水衛生設備】 【浄化槽設備】【機器取付】	55

§ 1 施工計画書作成及び本手引きの目的

施工計画書は、受注者が工事目的物を完成させるために、現場の特色を加味した上で必要な手順や工法等の計画を具体的に立案し文書化するもので、「手順や工法等」の記述通りに施工することを受注者が定め、発注者へ約束するものです。本手引きは、施工計画書作成の際、施工計画や品質計画の作成作業が円滑に行えるよう、受注者が施工計画を作成する際の記載事項を例示したものです。受注者は、施工計画書の中で、工事の基本要求品質を満たすための品質管理方法や出来形管理の管理基準等を示した品質計画を作成し、監督員と検討・調整を行った上で、監督員の承諾を受けて下さい。

なお、本書に記載のない工種については、近似している工事種別施工計画書を参照して下さい。

§ 2 施工計画書作成の留意事項

- ① 共通的に利用できるように便宜的に作成されたものにならないよう工事毎に、個別具体的な検討を行う。
- ② 原則、工種別施工計画書は総合施工計画書と別冊とするが、小規模工事等で工種が少ない場合は総合施工計画書に含めてもよい。
- ③ 工種別施工計画書を作成及び省略する工種を、総合施工計画書の品質計画の中で記述し、監督員の承諾を受ける。
- ④ 発注者に提出するだけでなく、自社社員や下請負者に内容を説明し施工計画書どおりに施工する。
- ⑤ 追加工事や施工方法等の変更により施工計画書に変更が生じた場合は、打合せ記録簿等により、経過又は理由を示し変更金額も含めて受発注者双方が納得した上、変更部分のみ変更施工計画書を提出し、確認を得ると共に自社社員や下請負者に変更内容を周知徹底する。なお、変更内容が軽微な場合は、変更箇所を含むページの右肩に変更日付を記入し、監督員に提出してもよい。
- ⑥ 当該工事に直接関係がない項目については記載しない。

§ 3 総合施工計画書

① 総合施工計画書の作成に当たって、設計意図の伝達や工事監理方針等において設計者や監督員から指示があった項目及び発注者との総合打ち合わせ等で指示があった項目についても施工計画に反映させる。

② 施工の実施は、総合施工計画書に基づき作成された工種別施工計画書や実施工程表に沿って行われる

③ 提案や創意工夫として取り組む項目がある場合は、「その他」の項目に予め明記する。

④ 総合施工計画書記載事項の内容

記載事項の標準的内容は次表を参考とする。

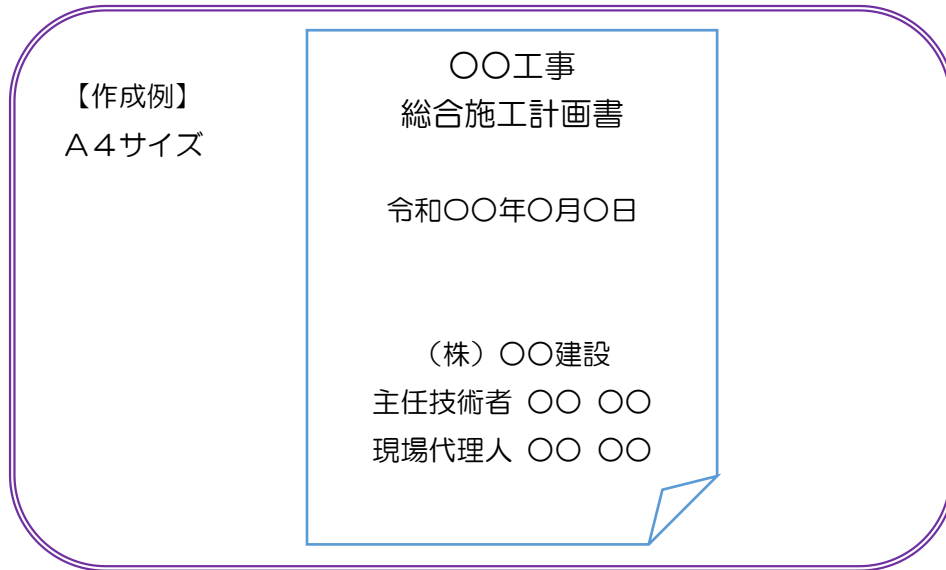
【総合施工計画書の記載事項】（詳細は § 4による）

記載事項	内 容
1. 工 事 概 要	工事名、工事場所、請負金額、契約年月日、工期、発注者、受注者、工事種別、工事概要、位置図、一般平面図等
2. 計 画 工 程 表	バーチャート工程表、曲線式工程表、ネットワーク等で作成
3. 現 場 組 織 表	現場の組織、編成、命令系統、業務分担、専門技術者等
4. 施 工 体 系 図	施工体系図「提出用」様式で作成
5. 主 要 工 種	主要工種の細目・規格・数量等
6. 品 質 計 画	品質目標、品質管理方針、重要管理項目、工種別施工計画書作成要領、検査立会項目、写真管理計画等
7. 養 生 計 画	新築又は改修工事について、既存部分及び施工済部分等の養生計画
8. 緊 急 時 の 体 制 及 び 対 策	事故発生時の連絡系統図・業務分担、事故報告、異常気象等の防災対策
9. 安 全 対 策	安全管理目標、安全管理方針、安全管理体制（安全管理組織表・作業主任者一覧表、有資格者一覧表）、安全対策（重要管理項目・安全管理活動・工事関係者連絡会議）
10. 環 境 対 策	騒音・振動・粉塵・水質汚濁・臭気・大気汚染・土壌汚染・地盤沈下対策
11. 総 合 仮 設 計 画	仮囲い等計画、足場計画、安全設備計画、揚重機等の配置計画、資材置場・資材搬入ルート、仮設建物の大きさや配置、危険物置場、仮設電気・仮設給排水等の引込等、排水計画等
12. 現 場 就 業 時 間	現場の就業時間、休憩時間等
13. 再 生 資 源 の 利 用 の 促 進 と 建 設 副 産 物 の 適 正 処 理 方 法	再生資源利用計画書、再生資源利用促進計画書、処理委託業者名、マニフェスト使用の徹底、社内の管理体制
14. 産 業 廃 棄 物 処 理 70-図	工事ごとにフロー図を作成
15. そ の 他	<ul style="list-style-type: none"> ・ 契約図書及び監督員の指示で、施工計画書に記載を必要とするもの。 ・ 関係機関との協議先一覧（警察署、労働基準監督署、道路管理者等） ・ 提案や創意工夫として取り組む項目と内容

§ 4 総合施工計画書作成要領

※ 受注者が作成する施工計画書の記載内容例及び作成方法を以下に示す。

◇. 表紙



◇. 目次

本手引で例にあげる記載事項のほか、工事の内容に応じて、項目を追加、細分化する。



1. 工事概要

工事名、工事場所、請負金額、契約年月日、工期、発注者、受注者、工事概要等を記載する。

【作成例】

工事名	〇〇工事
工事場所	〇〇市〇〇町地内
請負金額	〇〇,〇〇〇,〇〇〇円
契約年月日	令和〇年〇月〇日
工期	令和〇年〇月〇日 ~ 令和〇年〇月〇日
発注者	佐世保市
受注者	(株) 〇〇建設
工事種別	改修工事
工事概要	RC造3階建て延べ面積〇〇m ² 庁舎の耐震改修工事、屋上防水改修工事、建具改修工事、外壁改修工事及び内装改修工事等

2. 計画工程表

契約工期に基づき、横線式・曲線式、バーチャート・ネットワーク式工程表など工事内容に適した工程表とし、立地条件、気象・地質・地下水等により施工に大きな影響が予想される事項については、過去のデータ等を充分調査し、次の内容を反映する。各工種別又は細別毎の実施作業量を把握し、計画作業量を維持するため労務・機械等の配置を検討する。各工種において、作業の開始と終了がわかるように記載すること。

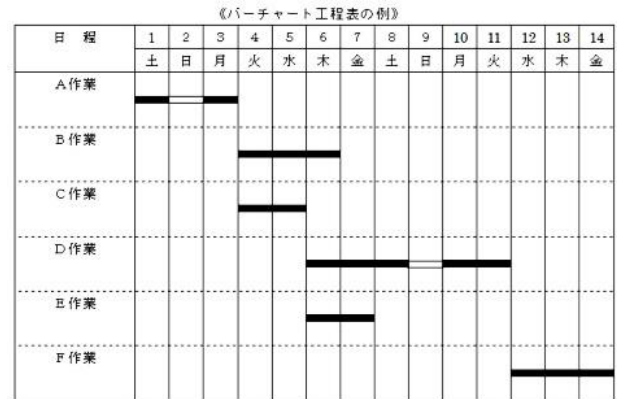
【記入項目】

①	工程の順序
②	電気、機械及びその他の工事工程の把握と調整
③	仮設準備期間
④	施工図、製作図作成の時期及び見本製作の期間
⑤	製作所決定の時期及び製作期間並びに搬入時期
⑥	施工の時期及び取合い部分完了の時期
⑦	養生期間
⑧	各工種工程との関連、試験の時期及び期間、検査及び立会い時期
⑨	施設管理者の行事、工事に影響のある工事外の行事
⑩	中間検査、完成検査、施工パトロール等の行事予定
	※ 備考欄に書類提出や検査等の予定を記入工期延伸等は変更工程表の提出、別契約工事の工程把握と調整

参考

① バーチャート工程表

縦軸に作業項目、横軸に作業に必要な予定日数を設け、各作業の開始から終了まで棒状で表現する工程表。作成や修正が容易で進捗状況が分かり易いが、作業間の関連及び工期に影響する作業が不明確。

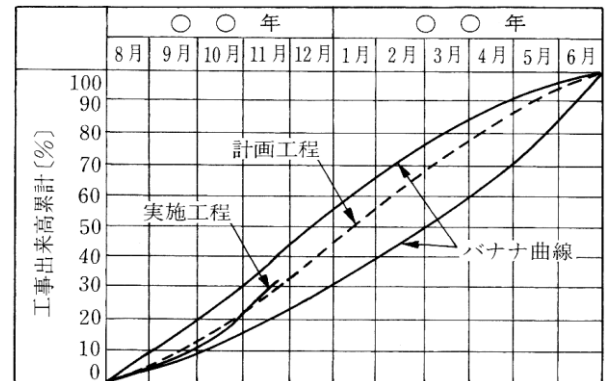


② 曲線式工程表（出来高累計曲線）

縦軸に出来高累計をとり、横軸に時間をとり、施工量の時間的変化を表した工程表。

管理すべき範囲を示す上下の工程管理曲線の中に入るように施工速度の管理に使用される。

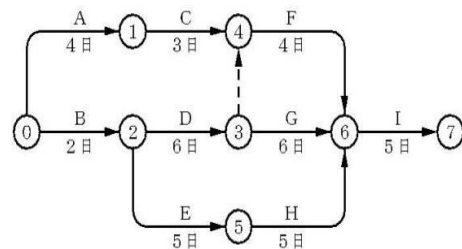
全体的な把握ができ、原価管理、工事の進捗状況が分かり易い。



③ ネットワーク式工程表

1つの作業の遅れが他の作業や全体工程に及ぼす影響を素早く、適格に把握することができる。

全体の把握及び作業間の関係が明確で、最も合理的な工程表。

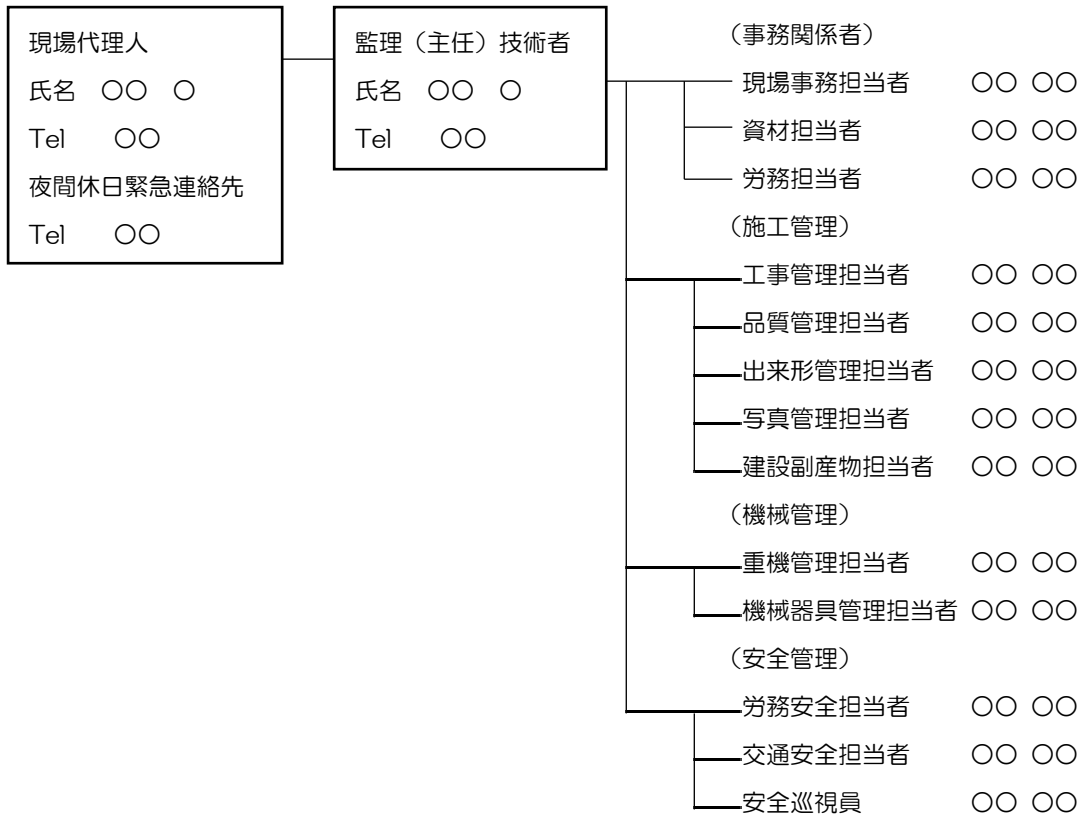


3. 現場組織表

現場代理人、監理（主任）技術者の他、安全巡視員等の現場施工に必要な担当者を定め、現場組織表を作成する。また、現場組織表は、現場における組織の編成及び命令系統ならびに業務分担が判るよう記載し、専門技術者を置く工事については、これを記載する。

- 工事に従事する構成員による現場組織表を作成する。
- 現場代理人については、夜間、休日等の緊急連絡先を記入する。
- 施工管理については、それぞれの担当区分及び担当者氏名等を記入する。
- 本社内に社内検査員等を置く場合は、その氏名等を記入する。

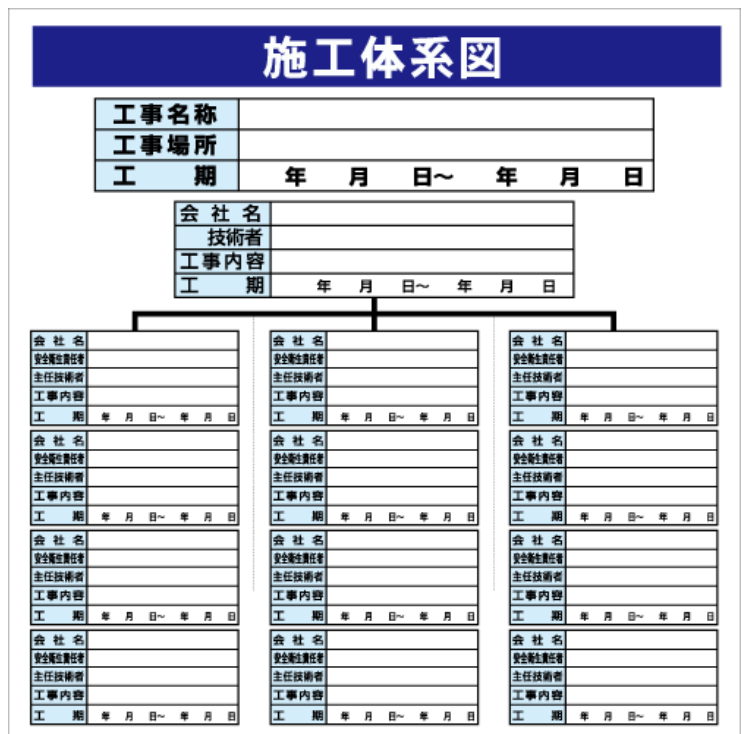
【作成例】現場組織表



4. 施工体系図

参考様式を参考に作成する。交通誘導員や揚重作業等の建設業に該当しない業種についても記載する。1次、2次、3次下請けの関連がわかるように、業者間を実線で結ぶ。

追加や変更が生じたら、作成年月日を右肩に記載し監督員に遅滞なく提出する。



5. 主要工種

・主要工種の・細目・規格・数量等を「公開参考積算数量内訳書」を参考に記入する。

工事区分	工種	細目	規格	単位	数量	摘要
建築工事	地業	既製ｺﾝｸﾘｰﾄ	径○、○○工法	本	○○	
	鉄筋	異形鉄筋	径○	t	○○	
	ｺﾝｸﾘｰﾄ	基礎	○N-○○-○○	m ³	○○	水セメント比○%以下
		躯体	○N-○○-○○	m ³	○○	製造業者：○生ｺﾝ
	型枠	普通		m ²	○○	
	防水	○○防水	厚さ○、防水○○工法	m ²	○○	屋上
	建具	アルミ製		箇所	○○	
	塗装	外部	○○塗	m ²	○○	外部
	内外装	○○張り	厚さ○、○○工法	m ²	○○	

※ 工種別施工計画書が無ければ、「主要資材一覧表」（HP：主な提出書類中）をこの章で作成する事。

6. 品質計画

- (1) 品質目標（材料・性能）：標準仕様書に定められた基本要件品質を満たすことを目標とする。
- (2) 品質管理方針（仕上げ・精度の目標）：下請に、工程会議等で施工計画書の内容を周知徹底
- (3) 重要管理項目

下記項目を考慮して決定する。

- ① 設計意図の伝達や工事監理方針等において設計者や監督員から指示があったもの
- ② 特殊材料や特殊工法を使用するもの
- ③ 関連工事が多いもの
- ④ 不確定要素が大きい杭工事について、施工精度を高める。
 - ・セメントミルク工法等では、杭心のずれや傾斜等について管理目標値を定め、確実に施工し、結果について施工報告書で報告する。杭の水平方向の位置ずれ（±80mm以内等）の精度は、特記に示すこと。
- ⑤ 外壁の一部が化粧ｺﾝｸﾘｰﾄ打放しの場合等は、特に躯体工事の出来形の精度を高める。
 - ・型枠の建込み時の垂直及び水平精度について管理目標値を定め、確実に施工し、結果については、型枠解体後各フロア毎に測定し施工報告書で報告する。
 - 型枠建込み時の垂直精度1/750 以内
 - 型枠建込み時の水平精度3mm/一辺以内
 - ・クラック防止対策について誘発目地の増設等の創意工夫を提案する。
- ⑥ 竣工後に雨漏りがしない建物をめざし、躯体にて漏水させない。
 - ・最上階のｺﾝｸﾘｰﾄ打設は、タンピングと木鏝押さえ2回、カナ鏝押さえ2回実施する。
 - ・ドレン廻りにクラック防止の補強筋を入れる。なお、ドレン廻りにｺﾝｸﾘｰﾄが充填しているか、ｺﾝｸﾘｰﾄ打設直後に打設音にて確認する
 - ・設計書の納まりをよく検討し、シーリングに頼らない防水工法を提案する。
- ⑦ その他品質管理上重要と思われるもの（将来瑕疵(不具合)がおきそうなもの)

(4) 工種別施工計画書作成要領

【作成例】工種別施工計画書

以下の工種別施工計画書を施工に先立ち作成し、監督員に提出する。

	工種	提出予定時期	提出日	承諾日
1	仮設工事	○月上旬		
2	地業工事	○月中旬		
3	土工事	○月下旬		
4	鉄筋工事	○月上旬		
5	コンクリート工事	○月中旬		
6	防水工事	○月下旬		
7	木・金属工事	○月上旬		
8	建具工事	○月中旬		
9	塗装工事	○月下旬		
10	内装工事	○月上旬		
11	その他工事	○月中旬		

(5) 検査立会項目

【作成例】検査立会項目

以下の項目及び監督員の指示する項目について、監督員の検査立会を受ける。

なお、立会に当っては、事前に連絡調整を行うと共に、社内検査結果を準備する。

種別	細別	検査時期	施工予定時期
仮設	縄張り	縄張り終了時	○月中旬
地業	特殊基礎工事	試験杭施工時（全数）	○月上旬
躯体	支持地盤	床付け完了時	○月中旬
//	鉄筋・型枠	ｺﾝｸﾘｰﾄ打設前	○月下旬 基礎
//	コンクリート工事	打設時早朝	○月上旬 土間
//	//	//	○月中旬 2階スラブ
//	鉄骨工事	高力ボルト締付・建方時	○月下旬
仕上げ	防水工事	防水下地終了時	○月上旬
	建具工事	骨組完成時	○月中旬
	外壁塗装工事	足場解体前	○月下旬
	下検査	完成時	

(6) 写真管理計画

《1》総合撮影計画表

【作成例】写真管理計画、工事記録のまとめ方

《1》総合撮影計画表

	撮影区分	撮影項目
1	着工前写真	全景・近隣、2方向
2	仮設工事写真	現場事務所・休憩室・仮囲い・看板
3	使用材料写真	使用品目ごと
4	施工状況写真	工事写真の撮り方（建築編）による
5	品質管理写真	//
6	出来形管理写真	//
7	安全管理写真	次項による
8	産業廃棄物処理状況写真	保管・積み込み状況を種別ごとに撮影
9	完成写真	着工前と同一方向より撮影
10	工事進捗状況写真	月末に2方向より撮影
11	事故・災害写真(発生時)	被災状況、事故原因がわかるもの

「工事写真の撮り方（建築編）」を参照して写真管理計画表を作成する。

《2》安全管理写真計画表

【作成例】

《2》安全管理写真計画表

	撮影項目		撮影項目
1	各種標識類の設置状況	5	機械・器具点検状況写真
2	交通誘導員の交通整理状況	6	安全訓練等の実施状況
3	災害防止協議会の開催状況	7	安全パトロール状況写真
4	KY・TBMの活動状況	8	その他の安全活動写真

7. 養生計画

- 既存部分及び施工済み部分等の養生計画について記載する。

【新築の作成例】

1. 材料搬入路

- ① 仮設計画図に記載した材料等の搬入路について、砂利を敷設して養生する。
- ② 足場や建物の搬入口は、養生コーナーカバー等で養生する。

2. 施工済み部分

- ① 施工済みの壁・柱は養生コーナーカバー等で養生する。
- ② 施工済みの床は養生ベニヤ等で養生する。

3 コンクリート打設後の養生

- ① コンクリートスラブ面より高い位置まで防災シートにて覆いをする。
- ② 気温25度以上になる場合は、打設後5日間はスラブ上に散水し急激な乾燥を防ぐ。場合によっては保水シートを敷き詰める。
- ③ 気温2度以下になる場合は、最上階にシートにて覆いをする。なお、気温0度以下になる場合は、下部において練炭等で採暖する。

【改修の作成例】

1. 材料搬入路

- ① 仮設計画図に記載した材料等の搬入路について、万能板を設置して養生する。
- ② 足場や建物の搬入口は、養生コーナーカバー等で養生する。
- ③ 建物内の搬入経路はビニルシート等で養生する。

2 既存部分

- ① 仮設間仕切壁設置部分は軽鉄下地石膏ボード両面張りで区画し、目張りする。
- ② 既存部分の家具等は施設管理者側で移動し、固定された家具はビニルシート等で養生する。
- ③ 既存ブラインド及びカーテンは一時取外し、施設管理者が指定する場所に保管する。
- ④ 屋上防水改修工事の場合
 - 屋上防水の改修工事に当たっては、天候に十分留意し、急変の恐れがある時はビニルシート等で養生する。

8. 緊急時の体制及び対応

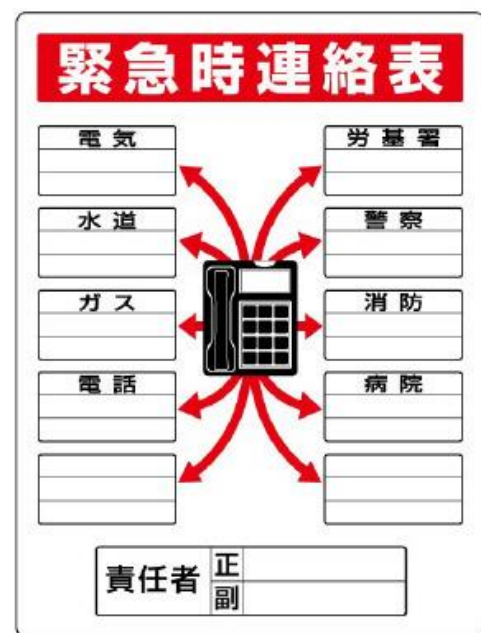
(1) 記載事項等

- ① 事故又は災害時の緊急事態発生時に対応できるよう、受注者、発注者、関係機関の連絡系統図を作成する。系統図には、夜間・日祭日における関係機関への連絡先も記入する。
- ② 作業中の事故、災害発生時に即応できるよう、緊急時の業務分担（対応・体制）を記載する。
- ③ 電力、水道、ガス、電話、消防署、労基署、警察署、道路管理者、救急病院などを記載した緊急時の連絡系統図の作成し、工事現場の見やすい場所に掲示。（下記表参照）
- ④ 大地震、大津波等の自然災害時における現場作業従事者の安全対策（避難計画、避難場所等）を考慮し、被災した人の家族や所属会社への連絡も忘れないこと。
- ⑤ 大雨、強風等の異常気象時における作業現場の防災管理体制と災害発生時の対策を行う。

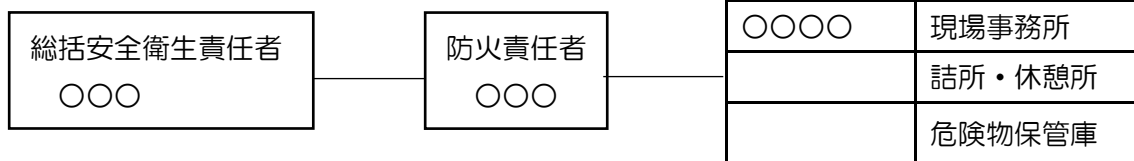
【作成例】

（事故発生報告）

1. 不慮の事故（公衆災害を含む）が発生した場合には、人命救助を最優先して対応すると共に、事故等発生速報により早急に発注者に報告を行う。
2. 事故・災害発生後は原因究明のために現場周辺を計測し、写真やビデオ等により記録し、現場周辺の計測その他原因究明に必要な措置を講ずる。
3. 緊急時の体制連絡系統図は右図参照のとおり



(2) 防火管理組織編成表



(3) 防災対策：災害及び公害を防止するための対策について、記載する。

- ① 台風や梅雨期等の気象状況は常に入手し、緊急事態に対応できるようにする。
- ② 台風や大雨等により緊急事態の発生が予想される場合は、巡回点検を実施し、結果を監督員に報告する。
- ③ 危険箇所を発見した場合は、立入禁止等の防護処置を実施する。
- ④ 緊急事態に際し、巡視員等の危険防止及び円滑な連絡体制を確保するために、安全訓練で予行演習を実施する。
- ⑤ 長期休暇時には連絡体制及び巡回等の防災対策について、事前に監督員に報告する。

9. 安全対策

(1) 建築工事における安全計画を立案するための基本となる法律及び標準仕様書等で示されている指針は下記のとおりである。

- ① 建築基準法
- ② 労働安全衛生法
- ③ 建設工事公衆災害防止対策要綱（建築工事編）
- ④ 建築工事安全施工技術指針

(2) 安全管理計画を立案するための検討項目は下記のとおりである。ただし下記項目は標準的なものであり、その他必要項目は法令・指針等を活用し詳細な計画を行う。

① 安全衛生管理体制

安全な工事を進めるための、責任者・管理者・作業主任者等を選任し、労働者の安全と健康を確保するための責任体制を明確にする。

② 労働者の危険又は健康障害を防止するための対策

- (イ) 機械・器具・爆発物による危険防止
- (ロ) 掘削、伐木作業等から生ずる危険防止
- (ハ) 作業通路・作業床・階段等の保全
- (ニ) 労働者の作業行動から生ずる災害を防止するための対策
- (ホ) 労働災害発生の急迫した危険があるときの処置
- (ア) 有機溶剤の使用にあたっての対策
- (イ) 酸欠・CO₂等に関する対策
- (フ) 熱中症予防対策

③ 労働者の就業にあたっての対策

- (イ) 安全衛生教育の方法
- (ロ) 就業制限に関する処置
- (ハ) 中高年齢者等についての処置

④ 第三者施設に対する安全対策

家屋・道路・河川・鉄道・ガス・水道・電気・電話・地下構造物等に近接して工事を行う場合の処置

⑤ 爆発及び火災防止対策

- (イ) 使用人等の喫煙・火気使用の処置
- (ロ) ガソリン・塗料等の可燃物を使用する場合の処置
- (ハ) 危険物置場等を現地に設置する場合の処置

⑥ 工事車両・重機類の事故防止対策

⑦ 足場・型枠支保工等仮設の安全対策

⑧ 大雨・強風等の異常気象時の防災対策

⑨ 工事現場が隣接し又は同一場所において別途工事がある場合の対策

⑩ 工事安全訓練の実施方法・頻度等

⑪ 工事安全巡視の実施方法

⑫ 交通安全対策

・安全管理に必要なそれぞれの責任者や組織、安全活動の方針、安全対策、事故発生時の措置（連絡方法等）及び安全訓練等の実施について、以下の事項を参考の上、記載する。また、万が一の事故発生時における救急指定病院、関係機関及び被災者宅等への連絡方法を記載する。

【作成例】

1) 安全管理目標

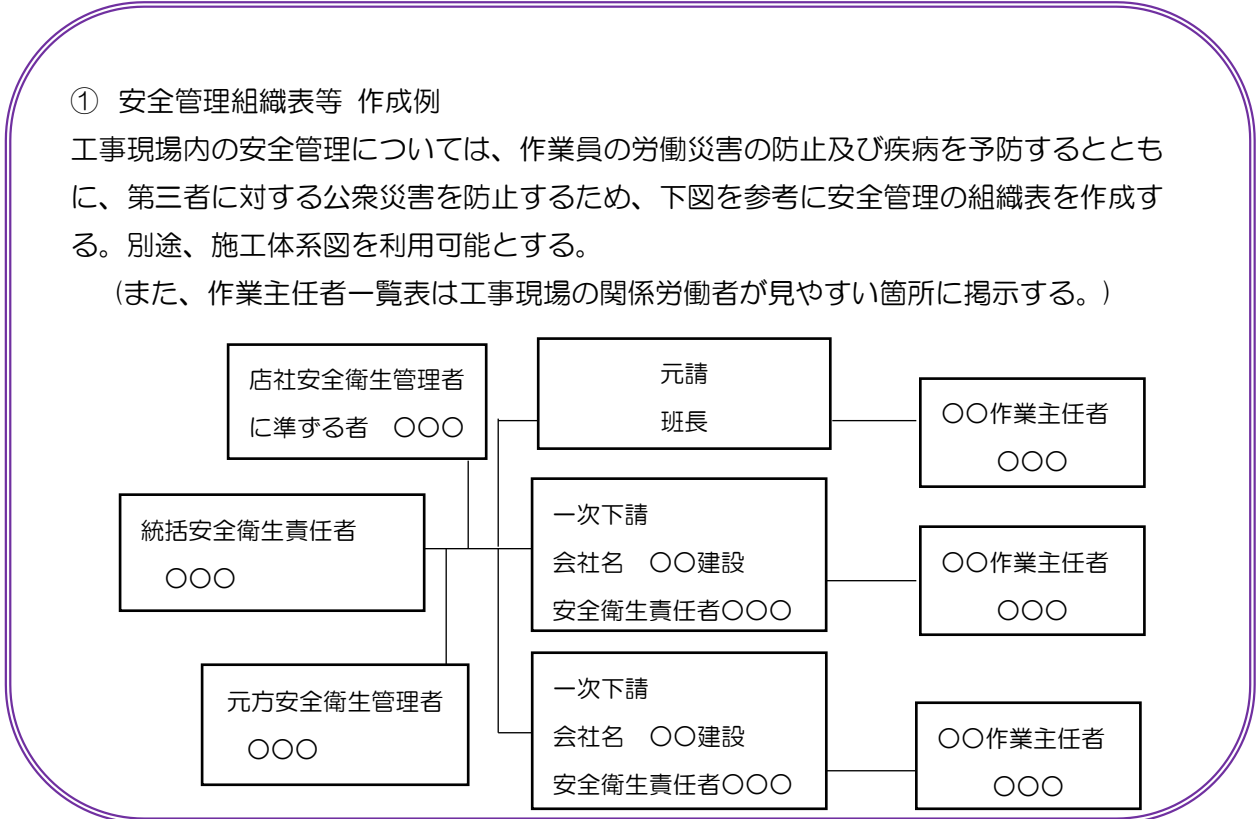
着工から完成引渡しまで無事故無災害で工事を遂行することを目標とする。

2) 安全管理方針又は対策

- ① 人命尊重最優先人 人命確保は何においても優先する。
- ② 安全体制の確立 安全施工サイクルの徹底による安全と施工の一体化
- ③ 安全で快適な作業環境の確立 日常の安全点検の徹底と危険の排除
- ④ 危険箇所の抽出、対策、点検方法
 - ・墜落・飛来・落下災害
 - ・交通管理（重機・車両災害の防止、車両の進入経路、資材の運搬経路、交通誘導員の配置計画）
 - ・第三者施設に対する安全対策
（家屋、道路、水道、ガス、電気、電話、地下構造物等に近接して工事を行う場合の処置）
 - ・火災、電気災害等の防止

3) 安全管理体制

① 安全管理組織表



② 作業主任者一覧表等の掲示

【作成例】

② 作業主任者一覧表

資格名	氏名	会社名	業務内容	交付番号
足場の組立て等作業主任者	〇〇	〇〇建設	外部足場：高さ20m	〇〇
土止め支保工作業主任者		〇〇建設	親杭横矢板工法	
地山の掘削作業主任者		〇〇建設	掘削深さ：5m	
型枠支保工の組立て等 作業主任者		〇〇建設	支保工：高さ4.2m	
石綿作業主任者	未定	未定	石綿除去	未定

③有資格者一覧表

資格名	氏名	会社名	取得年月日	交付番号
アーク溶接	〇〇	〇〇建設	年〇月〇日	〇〇
玉掛け		〇〇建設	年〇月〇日	
ガス溶接		〇〇建設	年〇月〇日	
移動式クレーン	未定	未定	未定	未定

※作業主任者や有資格者が未定の場合は、「未定」と記入し、別途工事種別施工計画書に記載する。

◎熱中症の症状等

下記の症状が発症したら、救急処置として涼しい場所で体を冷やし、水分及び塩分を含むスポーツドリンク等の摂取を行い、必要に応じて、救急車を要請し、医師の診断を受けること。

- 熱失神：暑熱環境下で多量の発汗等により、脳への血流の減少による立ちくらみ
- 熱けいれん：汗で失われた塩分が不足することにより生ずる筋肉のこむら返りや痛み
- 熱疲労：脱水が進行して、全身のだるさや集中力の低下した状態をいい、頭痛、気分の不快、吐き気、嘔吐などが起こり、放置すると致命的な「熱射病」に至り、意識障害、全身のけいれんが現れる。

③ 安全教育・安全訓練等を始めとした安全管理活動の計画

【安全管理活動例】

・下記項目の安全活動を実施し記録する。

活動名	場所	参加者	頻度	内容等
新規入場者教育	現場 事務所	現場作業従事者 新規入場者	随時	工事概要、担当作業内容、危険箇所等の説明及び健康状態、資格等の確認
朝礼	現場	現場作業従事者	毎日	当日の作業手順及び連絡、体操
KY活動	現場	現場作業従事者	毎日	当日の危険予知及び安全作業に関する事項
始業前点検	現場	現場作業従事者	毎日	重機・工具や足場・支保工の点検及び作業箇所の安全点検
安全巡視	現場	統括安全衛生責任者	毎日	現場内及び周辺の監視及び点検
工程会議	現場	安全衛生責任者	毎日	翌作業日の工程調整及び作業打合わせ
現場清掃	現場	現場作業従事者	毎日	現場の持ち場廻りの整理清掃
終了時点検	現場	安全衛生責任者	毎日	後片付けや施錠等の第三者災害防止の確認
安全工程打合わせ	現場 事務所	統括安全衛生責任者 安全衛生責任者	毎日	本日の作業の進捗状況の報告 翌日の作業と安全注意事項の打合わせ他
災害防止協議会	現場 事務所	統括安全衛生責任者 安全衛生責任者	月1回	受注者、下請等協力会社の協議により統括管理を図る協議
店社安全パトロール	現場	店社安全衛生責任者	月1回	設備・機械、作業状況等の現場内及び周辺の点検及び指導
安全教育・安全訓練	事務所	現場作業従事者	月1回	当該工事の安全目標・安全ルールや台風による足場の安全点検等
使用機械・車輛等の点検	現場	現場作業従事者等	月1回	使用機械・車輛等の点検及び整備、運転席からの視野等
過積載対策	現場	車両・重機運転手	随時	資材搬出入時の点検及び指導

④ 工事関係者連絡協議会

当工事現場は、別途2件の工事（電気設備・機械設備）が発注されており、受注者間の安全施工を確保するため連絡協議会を設置する。

- i. 月例会議 ・毎月第○曜日 14:00～開催
・出席者：発注者、施設管理者、工事監理者、建築・電気設備・機械設備現場代理人
- ii. 週例会議 ・毎週第○曜日 9:00～開催
・出席者：施設管理者、建築・電気設備・機械設備各現場代理人

4) 安全対策

★重点管理項目

当該工事の作業条件を考慮して以下の項目を重点管理項目とする。

① 第三者災害の防止

- ・工事区域は、仮囲い・バリケード等を設置して工事看板等により明確に区画し、「関係者以外立ち入り禁止」の表示をする。
- ・工事車両の現場出入口には適宜交通整理員を配置して、交通事故の撲滅に努める。
- ・運搬時間は、施設管理者等と協議を行った上決定し、通勤・通学時間帯の運搬作業は行わない。
- ・施設管理者と週に1回程度工程打ち合わせを行い、安全対策の確認を行う。

② 墜落・落下事故の防止

- ・足場の点検を確実にを行い、結果を記録する。
- ・外部足場は手すり先行足場を原則とする。
- ・高所（高さ2m以上）での作業は安全帯の使用を徹底する。ただし、2022年からフルハーネス型へ
- ・毎日の作業の調整を行い、足場上での上下作業を行わない。
- ・脚立足場は3点支持とし、足場板をゴムバンド等で固定する。
- ・単独で脚立を使用する場合は、力が入る作業や身を乗り出して作業しない。

③ 重機災害の防止

- ・重機の配置計画を前日の打合せで徹底し、かつ朝礼で作業員に周知する。
- ・重機の運転、取扱は有資格者が行う。
- ・作業前点検を確実にを行い、結果を記録する。
- ・カラーコーン等により重機の旋回範囲内への立入禁止措置を徹底し、やむなく作業範囲内での作業が生じた場合は、作業指揮者を配置し、オペレーターとの合図を確実にを行う。
- ・重機を後進する場合は、誘導員の指示を受け、後方・周囲を確認する。
- ・荷重及びエンジンをかけたまま運転席を離れない。
- ・クレーンのアウトリガーの張り出しは、鉄板及び敷板等を設置して安定性を確保する。

④ 現場の整理整頓の励行

- ・作業員に対し、常に現場の整理整頓に留意して作業に望むように周知徹底する。
- ・毎日作業終了後に持ち場廻りの片付け及び作業場所廻りの整理整頓清掃を行う。

10. 環境対策

工事現場の生活環境の保全と円滑な工事施工を計ることを目的として、環境保全等関係法令・仕様書の規定を遵守の上、下記の項目について対策を検討する。

- I 騒音・振動対策 II 粉塵対策 III 水質汚濁対策 IV 臭気・大気汚染対策 V 土壌汚染対策
VI 地盤沈下対策 VII その他の環境対策

I 騒音・振動対策

- (1) 特記仕様書で指定された重機は低騒音・低振動型建設機械を使用する。
- (2) 軟弱地盤の場合、敷地周辺に深さ1.5m程度の堀を設け、重機等の作業により振動が周辺地域に伝わらないようにする。
- (3) 重機の空ぶかし、バケットのゆさぶり、ダンプトラックの急発進・急停車等による騒音・振動がないよう指導し徹底させる。
- (4) 現場が騒音・振動規制区域内にあるか確認し、特定建設作業に該当する場合は関係機関に届出する。また、敷地境界付近で規制値を越えないか測定し記録する。

II 粉塵対策

- (1) 現場内及び運搬路等の防塵対策として、必要に応じ散水する。
- (2) タイヤの水洗いは場内で行い、道路等を土砂等で汚さない。万が一、汚した場合でも、速やかに取り除き清掃する。

III 水質汚濁対策

- (1) 降雨時に汚濁水が直接流出しないように、釜場を設ける等の対策を講じる。
- (2) 基礎工事中は、ノッチタンクを設置して泥分を沈下させ上水を排水する。(場合によってはPH測定を行いPH6～PH8の管理基準内で排水する。)
- (3) 生コン車の洗浄は、自社(生コン会社)に持ち帰り実施するように指導し徹底させる。
- (4) 塗装の刷毛等の洗いを現場で流さない。

IV 臭気・大気汚染対策

- (1) 排出ガス対策型建設機械を使用する。
- (2) 運搬車輛(ダンプ等)はアイドリングストップを義務づける。
- (3) 室内において、塗装の臭気が残らないよう送風機等により十分に換気を行う。
- (4) アスファルト防水で釜を焚く場合は、臭いについて周辺住民に説明をするとともに消防署に届け出て許可を得る。

V 土壌汚染対策

- (1) 土壌汚染対策法により、一定規模以上の土地の形質の変更をしようとする者は、施工方法等の計画を環境部に届出を提出し、「汚染のおそれがある」と判断された場合、土壌汚染状況調査が必要となる。

VI 地盤沈下対策

- (1) 道路面の掘削作業は“すかし掘り”をせず簡易型山止めを行う。
- (2) 毎日の巡視で周辺の道路や敷地にクラックが発生していないか確認する。

Ⅶ その他の環境対策

- (1) 工事着手前に付近住民に対し挨拶及び工事内容説明を行い、工事に対する理解と協力を求め、その結果を監督員に報告する。
- (2) 工事用看板を設置し、1週間ごとの工事内容の予定を付近住民に周知させる。
- (3) 付近住民等からの苦情や意見等には丁寧に対応すると共に、速やかに監督員に報告する。
- (4) 地域住民等とのコミュニケーション向上のため、現場周辺の一斉清掃を月1回程度実施する。
- (5) 作業環境の改善のため、作業員の休憩所及びトイレを設置する。
- (6) 喫煙は指定場所(事務所・休憩所内)以外では禁止する。

1 1. 総合仮設計画

仮設計画等について、下記項目等を記載

- ① 仮囲い：成形鋼板H=2m（解体・特殊基礎等H=1.8m）、クロスゲートH=1.8m
- ② 仮設足場：枠組本足場（手すり先行方式）、落下防止用の巾木（H=150以上）、落下防止ネット等
- ③ 安全設備計画：作業車・車両動線、工事関係者以外の動線確保、交通誘導員の配置（現場出入口等）
- ④ 揚重計画：材料の揚重用として移動式クレーンOtの使用
- ⑤ 仮設建物の配置：資材置場・機材の搬出入経路、荷捌きスペース、駐車スペース、材料置場、仮設事務所・作業員休憩所、仮設トイレ、危険物貯蔵所、下小屋、再資源化分別処理BOX等
- ⑥ 工事用電力・工事用水の引込み位置（有償無償）及び排水計画等
- ⑦ 近隣の安全に対する処置（必要に応じて）

1 2. 現場の就業時間

工事現場（各施設等）の就業規則に基づき、就業時間、休憩時間等を明記する。

1 3. 再生資源の利用の促進と建設副産物の適正処理方法

再生資源利用の促進に関する法律に基づき、下記事項について計画する。

- ① 建設副産物の適正処理方法（マニフェスト使用の徹底）
- ② 再生資源利用計画書・促進計画書（契約額500万円以上）
- ③ 建設副産物情報交換システム（COBRIS）への登録と入力（契約額500万円以上）
- ④ 処理委託業者との契約書（建設廃棄物の運搬・処分の委託を行う場合）
- ⑤ 社内の管理体制（建設副産物対策の責任者の明確化）

1 4. 産業廃棄物処理フロー図

- ① 工事着工前に工事ごとの産業廃棄物処理フロー図を作成する。
- ② 記載内容に変更があった場合は、その都度速やかに監督員に報告する。

1 5. 着手前調査

近隣建物、工作物の状況、既存施設、通行経路、障害物、文化財、埋蔵物、境界の確認、搬入道路の状況（幅員・規制・条件など）等の着手前調査の実施について記載。※ 改修工事等の場合は、工事着手前の施設等の状況（破損状況）等を、施設管理者と共に確認しておくことが望ましい。

16. その他

その他必要と思われる事項について記載。（例）

(1) 提案や創意工夫として取り組む項目と内容

- ① 品質向上対策：外壁のクラック防止対策として、誘発目地の増設を提案する。
- ② 安全対策：第三者の対する交通安全対策として、工事車両の出入口に黄色回転灯を設置する。
- ③ 環境対策：既存建築物の解体時の騒音対策として、騒音計を設置し85dB以下になるように監視する。敷地周辺の清掃活動を1回/月程度実施する。

(2) 官公署等又は関係機関への手続きと協議先一覧（警察署、労働基準監督署、道路管理者等）

騒音規制法、振動規制法 労働者災害補償保険法、労働安全衛生法、道路交通法、建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律ほか、官公署等への手続きが必要な事項及び協議先の一覧を作成する。

【作成例】

提出書類	関係機関	備考
足場設置届	佐世保労働基準監督署	○月○日頃
道路占用許可申請	市役所：土木政策管理課、県北：建設管理課	○月○日頃
道路使用許可申請	所轄警察署（佐世保・早岐・相浦・江迎）	○月○日頃
特定建設作業実施届	市環境部(騒音、振動規正法関係)	

(3) 契約図書及び監督員の指示で、施工計画書に記載を必要とするもの

(4) 緊急用品の常備、夜間警備による安全（火災、盗難など）・必要時期・範囲

§5 工種別施工計画書

- ① 原則として、工種別施工計画書は総合施工計画書と別冊とするが、**小規模工事等で工種が少ない場合は総合施工計画書の主要工種の項目に含めて提出してもよい。**
 - ② 工種別施工計画書はすべての工種で必要ではなく、当該工事の主要工事と考えられる工種のみ作成してもよい。なお、この場合は、総合施工計画書の品質計画（工種別施工計画書作成要領）の項目にその旨記載し、監督員の承諾を受ける。
 - ③ 工種別施工計画書の施工方法の項目には、品質確保を意識した施工方法を具体的に記載する。
 - ④ 工種別施工計画書の作成に当たっては、事前に下請負者に総合施工計画書に沿って工事全般の運営方針を説明すると共に、下請負者から工事の進め方や要望等の意見を聴き、施工要領書を提出させる。ただし、工事の規模によっては両書を統合しても良い。
 - ⑤ 工種別施工計画書の施工管理計画（品質管理計画、出来形管理計画）の作成に当たっては、（一社）公共建築協会発行の「公共建築工事標準仕様書に基づく建築工事の施工管理（施工計画書作成要領）」の施工管理表が参考となる。
 - ⑥ 工種別施工計画書には、以下の項目を記載する。
 - ・工種別工程表・管理組織図・主要資材・施工管理計画（品質管理・出来形管理・写真管理）
- ※自主検査チェックシート等を添付し、管理項目と管理基準を明確にする。
- ・施工方法（作業フロー、施工方法、使用機械等）

§ 6 工種別施工計画書作成要領

工種別施工計画書に記載する事項の標準的内容は下表のとおりとする。

工種別施工計画書は以下に記載のある工種ごとに作成しなければならないものではなく、工事の内容に応じて、組み合わせて1つの施工計画書としてもよい。また、施工計画書を作成する工種については、総合施工計画書に記載し、監督員の承諾を得ること。

1. 仮設工事

区分		記載事項	
施 工 計 画 書	工程表	施工時期（建物位置出し・レベル設定時期など）、 工事工程と仮設の関連、仮設物の設置・撤去時期、検査時期	
	品 質 計 画	現場組織	施工業者名、作業の管理組織、安全衛生組織、 工事用電力設備の保安責任者、作業主任者
		材料・機材	使用機材名、規格、種類、形状、寸法、材料・機材の品質確認方法
		施工	仕上げの程度、性能、精度の目標
		報告	施工報告書の項目・内容
		官公署への届等	道路占用届、道路使用届、足場の設置・移転・変更届
		検査・試験	工程内検査の方法、社内検査責任者と合否判定基準
		安全環境対策	墜落防止、感電防止、落下物防止、粉塵・騒音・振動対策 施設利用者・近隣住民に対する安全処置、工事中の電波障害対策、 足場の点検
工法(施工要領)	仮囲設置時の部外者への安全確保配慮(材料の運搬経路及び作業動線) 仮設建物、仮設設備足場、棧橋、構台、楊重設備の設置 常時の清掃・点検・整備計画 縄張り・遣り方（敷地境界の確認・建物位置出し） レベル設定（設計ベンチマークの位置・仮ベンチマークの位置）		
施 工 図	配置図	材料の運搬経路及び作業動線と部外者の動線	
	足場計画図	平面図、立面図、詳細図【働きやすい安心感のある足場(据置型・専用足場)】、 手すり、壁つなぎ、はね出し、すべり止め、朝顔など	
	各部詳細図	仮囲い(位置、高さ、材料、控え等)、監督職員事務所(規模、仕上げ、備品等) 受注者事務所、下小屋作業所及び材料置場(設備関係を含む) 危険物貯蔵所(構造、施錠、「火気厳禁」表示、消火器設置) 仮設建物、仮設設備、仮囲い、ゲート、足場、棧橋、構台、楊重設備	

2. 解体工事

区分		記載事項
施工計画書	工程表	既設調査、施工箇所ごとの施工時期、検査の種類と時期、電気・ガス・水道・電話・テレビ・通信・消火管等の切断・切り回し、アスベスト調査
	品質計画	<p>施工業者名、作業の管理組織、安全衛生組織、建設リサイクル法の遵守《アスベスト含有建材の処理がある場合》</p> <p>石綿則に基づく石綿作業主任者（常駐）、専門工事業者、除去業者、石綿標識（建築物等の解体等の作業に関するお知らせ）設置、特別管理産業廃棄物管理責任者（成形板除く）</p>
	製品・材料	養生種類、規格、材質、形状、製品・材料の品質確認方法
	施工	仕上げの程度、性能、精度の目標、出来形（形状・寸法）の確認
	検査・試験	受入検査の方法、工程内検査の方法、社内検査責任者と合否判定基準、熱しゃく減量測定、監督員検査の方法（時期・項目）
	報告	材料搬入報告・施工報告書の項目・内容、マニフェストE表の提出
	安全環境対策	足場の安全性、落下防止、道路の汚染、砂ぼこり防止、近隣対策、防護管
工法（施工要領）		<p>撤去方法、解体順序：設備・内外装材・屋根葺材・躯体・基礎・杭・舗装・設備配管・整地）、機械の種類、養生方法（既設工作物）、切り回し、配管等の切断方法及び位置の明示方法、既存杭の撤去・処分</p> <p>低騒音型重機の一覧表及びカタログ</p> <p>コンデンサ、蓄電池等の事前措置、浄化槽の措置、建設副産物の運搬及び処分の委託等、</p> <p>アスベスト処理方法：特別管理産業廃棄物として特別管理型の最終処分場、運搬車両の過積載防止対策、土砂運搬車による道路の汚染防止対策</p>

3. 土工事

【根切り及び埋戻し】

区分		記載事項	
施工計画書	工程表	根切り・埋戻しの時期、山留め設置・撤去の時期、検査の種類と時期	
	品質計画	現場組織	施工業者名、作業の管理組織、安全衛生組織
		材料	埋戻し及び盛土の種類、使用箇所、種別、材料の品質確認方法
		施工	仕上げの程度、性能、精度の目標
		報告	施工報告書の項目・内容
		検査・試験	受入検査の方法、社内検査責任者と合否判定基準、 工程内検査の方法、監督員検査の方法（時期、項目）
		安全環境対策	運搬車両の事故防止、汚染・飛散防止、騒音・振動対策、非常時の対応、 山留め変位等の計測、近隣地域対策（地下水位、地盤沈下など）
工法 （施工要領）	根切り工法、順序、予定搬出土量、根切土仮置き計画、 排水方法及び水質管理、地均し、山留めの要否（根切り深さ1.5m 超）、 地中埋設物への注意（埋設配管確認のため試掘等）、障害物の処理方法 施工機械の種類・能力（低騒音・低振動）、法勾配並びに法面の養生方法、 建設発生土の処理方法 運搬車両の過積載防止対策、土砂運搬車による道路の汚染防止対策 埋戻し工法（躯体への影響がない重機の作業範囲）、 締固め方法、余盛り高さ		
施工図	掘削図	根切り範囲（基礎との余裕幅）・深さ・順序、釜場の位置・寸法、ポンプ台数	
	埋戻し図	埋戻し範囲・深さ・順序	

【山留め】

区分		記載事項	
施工計画書	工程表	山留め設置・撤去の時期、根切り・埋戻しの時期、検査の種類と時期	
	品質計画	現場組織	施工業者名、作業の管理組織、安全衛生組織、作業主任者
		材料	使用材料名、使用箇所、製造所名、種類、材質、形状、寸法
		施工	仕上げの程度、性能、精度の目標
		報告	施工報告書の項目・内容
		検査・試験	受入検査の方法、工程内検査の方法、社内検査責任者と合否判定基準
		安全環境対策	運搬車両の事故防止、汚染・飛散防止、騒音・振動対策、非常時の対応、山留め 変位等の計測方法及び異常時の対応、近隣地域対策（地下水位、地盤沈下等）
工法 （施工要領）	根切り工法、順序、予定搬出土量、根切土仮置き計画、 排水方法及び水質管理、地均し、山留めの要否（根切り深さ1.5m 超）、 法勾配並びに法面の養生方法、		
施工図・山留め計画		工法、範囲、深さ、支保工（段数、位置）、構台等の仮設物との取合い	

4. 地業工事

【既製コンクリート杭】

区分		記載事項	
施工計画書	工程表	杭位置だし時期、試験杭・本杭の施工時期、 施工機械・既製杭の搬入(試験杭の結果による変更の考慮)・搬出時期、 検査の種類と時期、杭施工後の養生期間(セメントミルク工法等(7日程度))	
	品質計画	現場組織	施工業者名、作業の管理組織、安全衛生組織、作業主任者、技能資格者(溶接)
		材料	杭の種類・規格・寸法・先端・頭部の形状・使用箇所・製造所名、 安定液・根固め液・杭周固定液の仕様、材料の品質確認方法
	施工	仕上げの程度、性能、精度の目標	
	報告	施工報告書の項目・内容	
	検査・試験	受入検査の方法、工程内検査の方法、社内検査責任者と合否判定基準 監督員検査の方法(時期・項目)	
	安全環境管理	機械の転倒防止処置、杭穴への転落防止処置、 騒音・振動・油滴飛散等の防止対策、 排土・排水・安定液・固定液等の発生材処理	
工法 (施工要領)		試験杭・本杭の施工方法(施工本数/日)、 設計支持力(支持力算定式)確認方法、 支持地盤・建入れ時鉛直性の確認方法、施工機械の仕様概要及び性能、 施工機械・杭の搬入経路(経路の養生方法)、杭の荷卸し方法(吊り方)、 ハンマ重量、継手の工法、溶接機の種類、杭頭の処理方法、 地中埋設物・障害物に対する処置、 杭心ずれ・天端高さの確認及び対応方法JIS A 7201、 プレボーリングの場合はその深さ	
		【セメントミルク工法】 安定液・根固め液の調合計画・管理(注入量・粘性・比重・圧縮強度)の方法 電流値等から支持地盤を全数確認し、記録を報告書に記載する等	
施工図・杭配置図		杭番号、試験杭、本杭の位置、施工順序、掘削深さ、杭天端の高さ、 既製杭の種類・径・長さ	

【場所打ちコンクリート杭】

区分		記載事項	
施工計画書	工程表	機械搬入・搬出、段取り、鉄筋架構、掘削、コンクリート打込み時期、施工図作成時期、検査の種類	
	品質計画	現場組織	施工業者名、作業の管理組織、安全衛生組織、技能資格者（溶接）、施工管理技術者（基礎施工士）
		材料	鉄筋の種類と規格、コンクリートの製造所・種別・計画調合書・計算書、安定液の仕様、材料の品質確認方法
	施工	仕上げの程度、性能、精度の目標	
	養生	コンクリートの養生方法、養生期間	
	検査・試験	受入検査の方法、工程内検査の方法、社内検査責任者と合否判定基準、監督員検査の方法（時期・項目）	
	報告	材料搬入・施工報告書の項目及び内容（施工記録、土質試料、コンクリート試験成績、杭心ずれ・天端高さ、孔壁測定など）	
	安全衛生対策	酸欠・有毒ガスに対する安全対策、機械の転倒防止処置、杭穴への転落防止処置、騒音・振動等の防止対策、安定液等の廃液・排土・排水・油滴等の飛散防止と処理	
工法（施工要領）	施工方法、施工機械の仕様概要及び性能、コンクリートの搬入経路・時間・打設方法、掘削精度の確認方法、安定液・泥水の管理方法、支持地盤の確認方法、スライムの処理方法、鉄筋加工・建込み・浮上り防止方法、地中埋設物・障害物に対する処置、杭頭の処理方法、杭心ずれ・天端高さの確認及び対応方法		
施工図・杭配置図		杭番号、試験杭の位置、本杭の施工順序及び深さ、杭天端の高さ	

【砂利・砂・捨コンクリート地業等】

区分		記載事項	
施工計画書	工程表	施工図作成時期、施工時期、検査の種類	
	品質計画	現場組織	施工業者名、作業の管理組織、安全衛生組織
		材料	種類、砕石：粒度分布、捨てコンクリート：調合計画表、防湿層：材料（材質・厚み）、材料の品質確認方法
	施工	仕上げの程度、性能、精度の目標	
	検査・試験	受入検査の方法、工程内検査の方法、社内検査責任者と合否判定基準、監督員検査の方法（時期・項目）	
	報告	材料搬入報告・施工報告書の項目・内容	
	安全衛生対策	機械の転倒防止処置、騒音・振動等の防止対策	
工法（施工要領）	施工機械の仕様概要及び性能、コンクリートの搬入経路、施工方法・仕上がり程度の確認方法		
施工図・伏図		段の位置、仕上がりレベル（深さ）、防湿層の施工範囲、砕石・捨コンクリートの施工範囲（基礎幅に対する余裕）及び厚み	

5. 鉄筋工事

【鉄筋】

区分		記載事項	
施工計画書	工程表	施工図作成時期、材料検査の時期、配筋検査の時期、検査の種類と時期、関連工事との調整	
	品質計画	現場組織	施工業者名、作業の管理組織、安全衛生組織 一級技能士（鉄筋組立て）《5,000 m ² 以上の場合》
		材料	使用材料名、規格、種類、使用区分、製造所名、保管方法、材料の品質確認方法
		施工	仕上げの程度、性能、精度の目標
		報告	材料搬入報告・施工報告書の項目・内容
		安全衛生対策	作業動線計画、墜落・転倒・突き刺さり・つまずき等の防止措置
	工法（施工要領）	鉄筋の加工場所・鉄筋加工設備（切断・曲げ）、加工形状、前打込み鉄筋位置の修正、継手工法、継手位置・長さ、定着長さ・方法 異形鉄筋のフック箇所、開口部・貫通孔等の補強要領、特殊補強要領、鉄筋のかぶり厚さ及びスペーサーの材質・形状・サイズ・使用部位、養生方法（組立後の乱れ防止策）、台直しの方法、関連工事との取合い	
施工図・伏図		鉄筋補強（増打ち・開口部、貫通孔、出隅入隅部、打継部） かぶり厚さ、柱梁交差部納まり、各部のかぶり厚さ、鉄筋間隔 設備工事など関連工事との調整	

【ガス圧接】

区分		記載事項	
施工計画書	工程表	施工時期、検査の種類と時期	
	品質計画	現場組織	施工業者名、作業の管理組織、技能資格者（ガス圧接）
		施工	仕上げの程度、性能、精度の目標
		不適合の管理	不合格となった圧接部の処置法
		報告	施工報告書の項目・内容
		検査・試験	品質管理試験の方法、試験機関
	安全衛生対策	ガスボンベの取扱い（高温時）、落下火花等に対する養生、換気の確保、防護眼鏡	
工法（施工要領）	ガス圧接装置・器具の種類、 圧接面の処理、天候による処理、圧接作業		

6. コンクリート工事

【コンクリート】

区分		記載事項	
施 工 計 画 書	工程表	型枠組立・コンクリート打込み・養生期間及び支柱取外しの時期、検査の種類と時期	
	品 質 計 画	製造工場	製造業者名、製造工場の管理組織、JISA5308表示許可（㊟マーク）有効期限、製造設備及び能力、品質管理基準、工場の場所、運搬経路・時間・距離 (㊟マーク工場を採用できない場合：施工管理技術者(コンクリート技士等))
		現場組織	施工業者名、安全衛生組織、一級左官技能士（床コンクリートこて仕上げ）《5,000㎡以上の場合》、作業の管理組織図（打設責任者名、作業主任者、ポンプ施工業者名、コンクリート圧送施工技能士、コンクリート主任技士、検査責任者）、有資格者一覧表
	材 料 (配合計画書)	主要資材一覧表、コンクリートの種類、種別、規格・予定数量・製造業者・品質証明・搬入時期・部位、設計基準強度（ F_c ） 構造体コンクリート強度、調合管理強度、調合強度、構造体強度補正值(S)、予想平均気温、暑中のSの扱い、スランプ、単位水量、単位セメント量 水セメント比、空気量、塩化物量(塩化物イオン量)、アルカリ総量の計算表、骨材の種類・品質(絶対密度・吸水率・単位容積重量・塩分含有量)・比重・粒度分布・採取場所・塩分含有量、粗骨材の最大寸法、セメントの種類・規格・製造所名、水の種類、混和材料の種類・規格・製造所名	
	施 工	作業フロー、打設計画、仕上げの程度、性能、精度の目標、チェックシート 使用機械（ポンプ車等）	
	養 生	打込み後の養生方法（暑中、寒中、降雨、降雪）、 湿潤養生、振動・外力からの保護、養生期間	
	検 査・試 験	供試体の採取（採取場所、養生方法）、受入検査の方法、試験機関の確認、品質管理計画、工程内検査の方法、出来高管理基準、社内基準等、 1日に100㎡以上打設の場合、受入時の水分量測定必要 社内検査責任者と合否判定基準、監督員検査の方法（時期・項目）	
	不 適 合 品 の 管 理	異状を生じたコンクリートの処理方法、部材位置・断面寸法の補修方法、クラック じゃんか、空洞、コールドジョイント、有害なひび割れ及びたわみの補修方法	
	報 告	材料搬入報告・施工報告書の項目・内容	
	安全衛生対策	災害防止対策、 周辺環境の保全（騒音・振動・大気汚染・水質汚濁・道路の汚れ・過積載等）	
工 法 (施工要領)	打込み区画、打込み量・方法・順序・打止め方法、作業動線、輸送管の大きさ 配置及び支持方法（フレキシブルホースの長さ、鉄筋・型枠の保護・清掃） 現場内運搬用機器（ポンプ・バケット・シュート・手押し車）の選定、 コンクリートポンプ車の圧送能力及び配車、生コン車の配車及び待機方法、 コンクリートの締固め方法、上面の仕上げ（タンピング）方法、作業員の配置 打継ぎ位置・方法、打継ぎ面の処理（外部及び水回りの打継ぎ）		

【型枠】

区分		記載事項	
施工計画書	工程表	施工図作成時期、型枠組立時期、取外し時期、コンクリート打込み時期、検査の種類と時期	
	品質計画	現場組織	安全衛生組織、施工業者名、一級技能士（型枠施工、5,000㎡以上の場合）
		材料	型枠材料の種別・厚さ、支保工の種類、せき板の厚さ・樹種、型枠緊張材の種別・使用箇所（コーン・ボルト式）、はく離剤の有無・種類、インサートの材質・形状、スリーブ材・打込み断熱材の仕様、材料の品質確認方法
		施工	仕上げの程度、性能、精度の目標
		検査・試験	受入検査の方法、工程内検査の方法、社内検査責任者と合否判定基準、監督員検査の方法（時期・項目）
		報告	材料搬入報告・施工報告書の項目・内容
	安全衛生対策	型枠強度の安全検討、墜落・転倒防止対策、廃材の適正処理、支保工の点検	
工法（施工要領）	型枠取りはずし条件、型枠構法の種類、ルーフトレンの打込み方法、型枠計算、清掃方法、型枠の転用計画		
コンクリート躯体図		建物の基準線と各部材の位置、柱・梁・壁など各部材の符号及び形状・寸法、開口部・貫通部・埋込み金物の位置、型枠の使用区分、コーンの使用箇所、床こて仕上げ高さ、打込み断熱材の有無、増打ち、ひび割れ誘発目地、仕上目地寸法・形状、打継目地位置、インサート割付け、設備工事等関連工事との調整	

7. 鉄骨工事

【鉄骨（工場製作）】

区分		記載事項	
施工計画書（工場製作）	工程表	材料調達時期、工作図作成・工場製作・施工時期、検査の種類と時期	
	品質計画	管理組織	受注者の管理組織と製作工場との関係
		製作工場	施工実績、管理組織、機械設備、受注能力、鉄骨製作管理技術者、技能資格者（溶接）、超音波探傷試験者（技量・経験）
		材料	使用材料名、使用箇所、製造所名、規格、種類、材質、形状、寸法、材料の品質確認方法
		施工	仕上げの程度、性能、精度の目標材料搬入報告・施工報告書の項目・内容
		検査・試験	自主検査の方法（組立検査（開先・ルート・予熱・ボルト孔等）、製品検査（部材の精度・溶接部社内検査））、超音波探傷試験の試験方法・試験機関・試験技術者
	報告	機械の転倒防止処置、騒音・振動等の防止対策	
工作	工作・溶接（加工・組立・溶接の製作手順、開先形状、溶接工法等）、品質管理（管理項目、方法、管理値、不具合処置方法）、塗装計画（材料・工法・塗装範囲）、仮設部材の取付、製品の輸送計画		

【鉄骨（現場施工）】

区分		記載事項
施工計画書（現場施工）	工程表	工場製作、検査の種類と時期、 施工時期（アンカーボルトの設置、建方、高力ボルト締付け、溶接作業の時期）
	品質計画	現場組織 建方施工業者名、作業の管理組織、安全衛生組織、技能資格者（溶接）、 施工管理技術者（鉄骨製作・施工等の指導及び品質管理、溶接管理）、 作業主任者（鉄骨の組立て等(5m以上)）
	材料	使用材料名、使用箇所、製作所名、規格、種類、寸法、保管方法
	施工	仕上げの程度、性能、精度の目標
	検査・試験	受入検査（製品検査）の方法、工程内検査（建方等）の方法、 社内検査責任者と合否判定基準、監督員検査の方法（時期・項目）、 超音波・浸透探傷試験等の検査機関・非破壊試験技術者
	工程表	工場製作、施工時期、検査の種類と時期
	報告	材料搬入報告・施工報告書の項目、内容
	安全衛生対策	作業区域、落下防止、搬入時間・経路
	工法（施工要領）	仮設計画、建方計画、現場接合、アンカーボルトの保持・埋込み工法、 建方作業順序と建入れ直し方法・不具合処置方法、 柱底均し工法、溶接工法、高力ボルト工法、 溶融亜鉛めっき工法、錆止め塗装
	耐火被覆（ある場合）	性能（耐火）、施工方法、認定工法の場合は認定書及び認定マーク、 飛散防止、周辺汚染防止

【工作図】

区分		記載事項
施工図	平面図	柱・梁・小屋組等の符号、建物の基準線と鉄骨の基準線、継手位置、接合位置
	軸組図	スパン、階高、ベースプレート的位置・材質、継手、接合位置
	詳細図	柱・梁の取合い、ベース廻りの納まり、加工・溶接等の作業性の確認、 高力ボルトの径・本数・ゲージ・ピッチ・へりあき、 溶接の種類・開先形状・位置・長さ・材質・寸法、設備工事との関連、 鉄筋の貫通孔位置・径・本数、安全タラップ等の仮設部材、 仕上げ工事及び関連工事との調整
	原寸図	各部材の取合い及び寸法

8. コンクリートブロック・ALCパネル・押出成形セメント板工事

【補強コンクリートブロック・コンクリートブロック】

区分		記載事項	
施工計画書	工程表	施工図作成時期、施工時期、検査の種類と時期、養生期間	
	品 質 計 画	現場組織	施工業者名、作業の管理組織、安全衛生組織、技能資格者（溶接）
		材料	ブロックの種類、使用材料名（セメント・骨材・鉄筋共）、製造所名、規格、保管方法、材料の品質確認方法
		施工	仕上げの程度、性能、精度の目標
		養生	振動、衝撃、荷重、直射日光、電気、雨水に対する処置
		検査・試験	受入検査の方法、工程内検査の方法、社内検査責任者と合否判定基準、監督員検査の方法（時期・項目）
		報告	材料搬入報告・施工報告書の項目・内容
		安全衛生対策	足場の安全性、墜落防止、落下防止
工法 （施工要領）	モルタルの調合、コンクリートの調合、充填方法、ブロックの積み方、配筋方法、あと施工アンカー・鉄筋の溶接・建具枠の取付方法、まぐさ・がりょうの仕様、養生方法、設備配管の施工方法		
施工図	パネル割付図	ブロック割り、配筋	
	各部詳細図	ブロックと壁との取合い、交差部・端部の取合い、まぐさ・がりょう・建具の取合い、設備配管・ボックス等の取合い	

【ALCパネル工事】 【押出成形セメント板】

区分		記載事項	
施工計画書	工程表	施工図作成時期、施工時期、検査の種類と時期	
	品 質 計 画	現場組織	施工業者名、作業の管理組織、安全衛生組織、技能資格者（溶接）
		材料	使用材料名、使用箇所、製造所名、規格、種類、運搬方法、保管方法、取付け金物、材料の品質確認方法
		施工	仕上げの程度、性能、精度の目標
		養生	モルタルの振動、衝撃、荷重、寒冷期の対策
		検査・試験	受入検査の方法、工程内検査の方法、社内検査責任者と合否判定基準、監督員検査の方法（時期・項目）
		報告	材料搬入報告・施工報告書の項目・内容
		安全衛生対策	足場の安全性、墜落防止、落下防止
工法 （施工要領）	パネルの取付け方法（層間変形への追従を含む）、モルタルの調合、目地などの充てん、パネルの開口、パネルの割付、養生方法		
施工図	パネル割付図	パネル割付、寸法、開口の位置、伸縮調整目地	
	各部詳細図	取付け、開口補強、躯体との取合い、建具枠との取合い、切欠き部の補強、防火区画、設備配管・ボックス等の取合い	

9. 防水工事

【アスファルト防水・改質アスファルトシート】

区分		記載事項	
施 工 計 画 書	工程表	箇所別、防水の種類別施工時期、検査の種類と時期	
	品 質 計 画	現場組織	施工業者名、作業の管理組織、安全衛生組織、 一級技能士(アスファルト防水・改質アスファルトシートトーチ工法防水) 《5,000 m ² 以上の場合》
		材料	使用材料名、使用箇所、製造所名、種類、規格、取扱、 保管方法(湿気、縦積み禁止、雨・日光避ける)、材料の品質確認方法
		施工	仕上げの程度、性能、精度の目標
		検査・試験	受入検査の方法、工程内検査の方法、各検査責任者と合否判定基準、 監督員検査の方法(時期・項目)
		報告	材料搬入報告・施工報告書の項目・内容、所要量の確認
		安全衛生対策	火気対策・高熱対策、換気・酸欠防止・悪臭対策、墜落防止・落下防止、 消防署への届出
	工法 アスファルト防水 (施工要領)	材料置場、アスファルト溶融釜の設置場所・構造、溶融管理方法、 天候による処置、下地処理(コンクリート打継部)、ひび割れ部、 施工方法、防水仕様、所要量、出隅、入隅、立上り、出入口回り、配管回り エキスパンションジョイント部・ドレン回り納まり、仕上塗料塗り、排水勾配、 便器との取合い、防水保護層、目地割り、目地構造、仕上げ塗装塗り	
工法 改質アスファルト シート防水 (施工要領)	下地処理(コンクリート打継部・PC板・ALCパネル板継ぎ目)、所要量、 天候による処置、施工方法、防水仕様、出隅、入隅、排水勾配、 立上り、出入口回り、配管回り、エキスパンションジョイント部納まり、 ドレン回り、仕上塗料塗り		
施 工 図	平面図	勾配、ドレン位置、伸縮調整目地割付、設備基礎	
	各部詳細図	立上りの構造・納まり、出入口回り、入隅、出隅、配管、ドレン回り、 エキスパンションジョイント部の取合い	

【合成高分子ルーフィングシート防水】

区分		記載事項	
施 工 計 画 書	工程表	箇所別、防水の種類別施工時期、検査の種類と時期	
	品 質 計 画	現場組織	施工業者名、作業の管理組織、安全衛生組織、 一級技能士(合成ゴム系・塩化ビニル系シート防水)《5,000 m ² 以上の場合》
		材 料	使用材料名、使用箇所、製造所名、種類、規格、取扱、保管方法、 材料の品質確認方法
	施 工	仕上げの程度、性能、精度の目標	
	検査・試験	受入検査の方法、工程内検査の方法、社内検査責任者と合否判定基準、 監督員検査の方法(時期・項目)	
	報 告	材料搬入報告・施工報告書の項目・内容、所要量の確認	
	安全衛生対策	墜落防止・落下防止	
工 法 (施工要領)	材料置場、天候による措置、施工方法、 下地処理(コンクリート打継部・PC 板・ALC パネル板継ぎ目)、排水勾配、 防水仕様、所要量、入隅、出隅、立上り、出入口まわり、配管まわり、 エキスパンションジョイント部・ドレン回り納まり、仕上塗料塗り		
施 工 図	平面図	勾配、ドレン位置、設備基礎	
	各部詳細図	立上り、出入り口回り、入隅、出隅、配管、ドレン回り、 エキスパンションジョイント部の取合い	

【塗膜防水】

区分		記載事項	
施工計画書	工程表	箇所別、防水の種類別施工時期、検査の種類と時期	
	品質計画	現場組織	施工業者名、作業の管理組織、安全衛生組織、 一級技能士(合成ゴム系塗膜防水)《5,000 m ² 以上の場合》
		材料	使用材料名、使用箇所、製造所名、種類、規格、取扱、保管方法、 材料の品質確認方法
	施工	仕上げの程度、性能、精度の目標	
	検査・試験	受入検査の方法、工程内検査の方法、社内検査責任者と合否判定基準、 監督員検査の方法(時期・項目)	
	報告	材料搬入報告・施工報告書の項目・内容、所要量の確認	
	安全衛生対策	引火対策、換気・酸欠防止、墜落防止・落下防止	
	工法 (施工要領)	材料置場、天候による措置、施工方法、 下地処理(コンクリート打継部)、防水仕様、所要量、排水勾配、 入隅、出隅、立上り、出入口まわり、配管まわり、 エキスパンションジョイント部・ドレン回り納まり、仕上塗料塗り	
施工図	平面図	勾配、ドレン位置、設備基礎	
	各部詳細図	立上り、出入り口回り、入隅、出隅、配管、ドレン回り、 エキスパンションジョイント部の取合い	

【シーリング】

区分		記載事項	
施工計画書	工程表	箇所別、種類別施工時期、検査の種類と時期	
	品質計画	現場組織	施工業者名、作業の管理組織、安全衛生組織、 一級技能士(シーリング防水)《5,000 m ² 以上の場合》
		材料	使用材料名、使用箇所、製造所名、貯蔵方法、保管方法、 材料の品質確認方法、被着体との組合せ
	施工	仕上げの程度、性能、精度の目標	
	検査・試験	受入検査の方法、工程内検査の方法、社内検査責任者と合否判定基準、 接着性能試験、監督員検査の方法(時期・項目)	
	報告	材料搬入報告・施工報告書の項目・内容、所要量の確認	
	安全衛生対策	高所作業・足場の安全性、墜落防止・落下防止	
	工法 (施工要領)	天候による処置、施工箇所の形状、施工方法、施工時気温、被着体表温、 異種材料の使用	

10. タイル工事

区分		記載事項	
施工計画書	工程表	施工図作成・材料決定時期、見本焼き時期、種類別施工時期、検査の種類と時期	
	品質計画	現場組織	施工業者名、作業の管理組織、安全衛生組織、
		材料	使用箇所・製造所名、使用材料名(モルタル共)、規格、種類、形状、寸法、色調、混和剤、接着剤、管理方法、吸水率、材料の品質確認方法
		施工	仕上げの程度、性能、精度の目標
		検査・試験	受入検査の方法、工程内検査の方法（打診試験、接着力試験方法）、社内検査責任者と合否判定基準、監督員検査の方法（時期・項目）
		報告	材料搬入報告・施工報告書の項目・内容
		安全衛生対策	足場の安全性、墜落防止、落下防止、室内換気
工法 (施工要領)	下地処理方法、施工箇所別の仕上げタイルの材質、張付け工法、張付順序、引き金物の取付け工法、目地の位置、目地の工法、目地モルタル調合、張付けモルタル塗付量、練混ぜ方法、排水勾配（雨・水掛り箇所）、関連工事との取合い（電気、機械、仮設）		
施工図	パネル割付図	タイル割付（基準線、まぐさ、窓台等）、目地寸法・位置、伸縮目地	
	各部詳細図	入隅・出隅・開口部、設備機器まわり取合い	

11. 木工事

区分		記載事項	
施工計画書	工程表	施工図作成・材料決定時期、工事期間、検査の種類と時期	
	品質計画	現場組織	施工業者名、作業の管理組織、安全衛生組織、
		材料	使用材料名、使用箇所、樹種、規格、種別、材質、形状、寸法、防腐剤、防蟻・防虫処理、含水率、材料の品質確認方法
		施工	仕上げの程度、性能、精度の目標
		検査・試験	受入検査の方法、工程内検査の方法、社内検査責任者と合否判定基準、監督員検査の方法（時期・項目）
		報告	材料搬入報告・施工報告書の項目・内容
		安全衛生対策	足場の安全性、火気対策
工法 (施工要領)	加工(仕上げ)、組立、取付け工法、防虫・防腐・防蟻処理(使用薬剤・使用量・方法)、金物の防錆、運搬・仮置方法、養生方法		
施工図	伏図・軸組図	小屋組、天井下地、床組、間仕切り軸組	
	各部詳細図	建具回り、壁、天井、床取合い、造作納まり、設備機器取合い、躯体との取合い（床、柱、壁、梁、スラブ下端）	

12. 屋根及びとい工事

【長尺金属板葺、折板葺】

区分		記載事項	
施工計画書	工程表	施工図作成・材料・色の決定時期、工事期間、検査の種類と時期	
	品 質 計 画	現場組織	施工業者名、作業の管理組織、安全衛生組織、技能資格者（溶接）
		材料	製造所名、使用材料名、種類、規格、材質、形状、寸法、厚さ、表面仕上げ、表面処理、保管方法、材料の品質確認方法
		施工	仕上げの程度、性能、精度の目標、保証期間等
		検査・試験	受入検査の方法、工程内検査の方法、社内検査責任者と合否判定基準、監督員検査の方法（時期・項目）
		報告	材料搬入報告・施工報告書の項目・内容
	安全衛生対策	高所作業、足場の安全性、墜落対策、火気対策	
工法 （施工要領）	下葺、性能（耐風圧）、折曲げ、はぎ合せ、留付け方法、屋根葺方法、補強、養生方法(保護)、専門工事業者の工法、折板葺：タイトフレーム取付方法、小はげ掛け、防錆処理		
施工図	割付図	割付	
	各部詳細図	谷、棟、軒先、けらば等の納まり、壁・突出物との取合い、他工種との取合い	

【とい】

区分		記載事項	
施工計画書	工程表	施工図作成時期、施工期間、検査の種類と時期	
	品 質 計 画	現場組織	施工業者名、作業の管理組織、安全衛生組織
		材料	使用材料名、製造所名、規格、種類、材質、形状、寸法、厚さ、表面処理、材料の品質確認方法
		施工	仕上げの程度、性能、精度の目標
		検査・試験	受入検査の方法、工程内検査の方法、社内検査責任者と合否判定基準、監督員検査の方法（時期・項目）
		報告	材料搬入報告・施工報告書の項目・内容
	安全衛生対策	高所作業、足場の安全性、墜落対策	
工法 （施工要領）	とい継手工法、防露(材料・工法)、軒樋メーカーによる取付方法、とい受金物(形式・間隔・取付工法、建物の納まり)、下がり止め、貫通部処理、掃除口、排水勾配、ルーフドレン(位置・高さ・取付工法、形式)		
施工図・各部詳細図		下がり止め、とい受け金物、貫通部処理、ルーフドレンの納まり、軒どいの軒先・壁との取合い	

13. 金属工事

【軽量鉄骨下地】

区分		記載事項	
施工計画書	工程表	施工図作成時期、製品製作・取付け時期、検査の種類と時期	
	品質計画	現場組織	施工業者名、作業の管理組織、技能資格者(溶接)、安全衛生組織、
		材料	使用箇所、使用材料名、製造所名、規格、種類、材質、形状、寸法、表面処理、鉄の亜鉛めっき、金属接触腐食防止処理、材料の品質確認方法、保管方法
		施工	仕上げの程度、性能、精度の目標
		検査・試験	受入検査の方法、工程内検査の方法、社内検査責任者と合否判定基準、監督員検査の方法(時期・項目)
		報告	材料搬入報告・施工報告書の項目・内容
		安全衛生対策	火気対策、足場の安全性
工法(施工要領)	加工・組立または取付工法、耐風圧(外部等)、耐震性(大空間の天井は崩落対策の検討)、スタッド間隔、振れ止め、開口部・天井段違い・出入口・ダクト・設備取合い等の補強、金属接触腐食防止処理、表面処理、溶接、ろう付け方法、養生方法		
施工図	割付図	材質、形状、寸法、伸縮継手の間隔、特殊形状の組立	
	各部詳細図	設備機器取合、補強方法、取付け金物、他工種の取合い	

14. 左官工事

【モルタル・セルフレベリング材・せっこうプaster塗及びロックウール吹付け

区分		記載事項	
施工計画書	工程表	材料決定時期、施工箇所別の施工時期、検査の種類と時期	
	品質計画	現場組織	施工業者名、作業の管理組織、安全衛生組織
		材料	使用箇所、使用材料名(セメント・混和剤・保水剤・吸水調整材等)、保管方法、材料の品質確認方法、防火・不燃材料の指定及び認定、ホムアルゲヒド® 放散量
		施工	仕上げの程度、性能、精度の目標
		検査・試験	受入検査の方法、工程内検査の方法、社内検査責任者と合否判定基準、監督員検査の方法(時期・項目)
		報告	材料搬入報告・施工報告書の項目・内容
		安全衛生対策	足場の安全性、大気対策、換気
工法(施工要領)	練混ぜ場所、練混ぜ方法、調合計画、塗り厚、塗り工法(施工箇所別)、下地処理・調整、モルタル仕上げの種類(施工箇所別)、ひび割れ防止策、各工程の養生期間及び確認方法、塗り面の浮き確認方法及び補修方法、早期乾燥・寒冷期・直射日光・降雨・強風時・汚れ防止などの養生方法		
施工図・詳細図		入隅、出隅、開口部、勾配(雨掛り部等)、目地の位置・形状・寸法	

【床コンクリート直均し仕上げ】

区分		記載事項	
施工計画書	工程表	施工時期、検査の種類と時期	
	品質計画	現場組織	施工業者名、作業の管理組織、安全衛生組織 一級技能士（左官）《5,000 m ² 以上の場合》
		施工	仕上げの程度、性能、精度の目標
	検査・試験		受入検査の方法、工程内検査の方法、社内検査責任者と合否判定基準、監督員検査の方法（時期・項目）
		報告	施工報告書の項目・内容
	安全衛生対策	足場の安全性	
	工法(施工要領)	表面仕上げの種類と施工場所、定規(水系、ガイドレール、ピアノ線等)	
施工図・伏図		表面仕上げの種類と施工場所、目地の位置・形状・寸法	

【仕上塗材仕上げ】

区分		記載事項	
施工計画書	工程表	材料決定時期、施工時期、検査の種類と時期、見本提出時期	
	品質計画	現場組織	施工業者名、作業の管理組織、安全衛生組織、
		材料	種類、呼び名、使用箇所、使用材料名、色、つや、層構成、塗り厚、使用量、下地調整材、目地シーリングとの塗重ね適合性、規格、ホルムアルデヒド放散量、防火・不燃材料の指定及び認定、保管方法、材料の品質確認方法
	検査・試験	施工	仕上げの程度、性能、精度の目標
			受入検査の方法、工程内検査の方法、社内検査責任者と合否判定基準、使用量確認・各工程養生期間確認・監督員検査の方法（時期・項目）
	報告	材料搬入報告・施工報告書の項目・内容	
	安全衛生対策	足場の安全性、大気対策、換気、近隣・入居者等への配慮	
工法 (施工要領)	見本塗板の作成、仕上の形状、 施工箇所別の工法(吹付け・ローラー塗り・こて塗り)、 下地調整、練混ぜ場所・方法、放置期間とその確認方法、汚れ防止(養生)、 気温・湿度の条件、足場つなぎ跡の補修方法、夏季の直射日光、 施工後の強風・降雨・結露への対策		

15. 建具工事

【アルミニウム製建具・鋼製建具・鋼製軽量建具・ステンレス製建具】

区分		記載事項	
施工計画書	工程表	施工図等作成・製品製作・搬入・取付け時期、検査の種類と時期	
	品	製作組織	製作者名、製作の管理組織
		現場組織	施工業者名、作業の管理組織、技能資格者(溶接)、安全衛生組織、
		材料	使用箇所、使用材料名、規格、種類、材質、形状、寸法、色調 表面処理、鉄の亜鉛めっき、金属接触腐食防止処理、 充填モルタル防水材・凍結防止剤、材料の品質確認方法、保管方法
		施工	仕上げの程度、性能、精度の目標
		検査・試験	受入検査の方法、製造者検査報告、工程内検査の方法、 社内検査責任者と合否判定基準、監督員検査の方法(時期・項目)
		報告	材料搬入報告・施工報告書の項目・内容
		安全衛生対策	火災防止、製品の倒壊・落下防止
工法(施工要領)		運搬・仮置方法、防火戸の種類、取付け方法、塗装方法、養生方法(保護)、清掃方法	
施工図	建具位置図/リスト	位置、種類、防火区画、防煙区画/形状、寸法、数量、錠前、鍵プラン、マスターキー	
	製作図	形状・寸法、ガラス種類・ガラス留め材の種類、防火仕様、取付方法 複層・網入ガラスの場合の水抜き孔、外部に面する建具の強度計算、排水経路 ガラスみぞ形状・寸法、補強材・金物類及びその取付位置、耐熱処理(アルミ) 開閉装置(排煙等)、施錠方法、ストッパー位置、関連工事及び仕上げ取合い	

【木製建具】

区分		記載事項	
施工計画書	工程表	施工図作成時期、製品製作・取付け時期、検査の種類と時期	
	品	製作組織	製作者名、製作の管理組織
		現場組織	施工業者名、作業の管理組織、安全衛生組織、
		材料	使用箇所、使用材料名・規格・種類・材質・形状・寸法、表面仕上げ、 塗装方法、色調、加工・組立の順序・工法、保管方法、材料の品質確認方法
		施工	仕上げの程度、性能、精度の目標
		検査・試験	受入検査の方法、製造者検査報告、工程内検査の方法、 社内検査責任者と合否判定基準、監督員検査の方法(時期・項目)
		報告	材料搬入報告・施工報告書の項目・内容
		安全衛生対策	火災防止、製品の倒壊・落下防止
工法(施工要領)		運搬・仮置方法、防火戸の種類、取付け方法、塗装方法、養生方法(保護)、清掃方法	
施工図	建具位置図	位置、種類	
	建具リスト	形状、寸法、数量、錠前、鍵プラン、マスターキー	
	製作図	形状、寸法、組立、取付け方法、金物類及びその取付位置、補強材、 施錠方法、関連工事及び各仕上げとの取合い	

【重量・軽量シャッター】

区分		記載事項	
施 工 計 画 書	工程表	施工図作成時期、製品製作・取付け時期、検査の種類と時期	
	品 質 計 画 書	製作組織(重量)	製作者名、製作の管理組織
		現場組織	施工業者名、作業の管理組織、安全衛生組織、重量・技能資格者(溶接)
		材 料 (重量シャッター)	使用箇所、使用材料名、規格、種類、材質、形状、寸法、 性能(耐風圧・防火・防煙等)、形式・機構、安全装置 表面処理方法(皮膜厚・塗膜厚)、塗装方法、防食・防錆方法、色調、 加工・組立の順序・工法、保管方法、材料の品質確認方法
		材 料・製品 (軽量シャッター)	使用材料名、使用箇所、製造所名、規格・種類・材質・形状・寸法・性能、 型式・機構、安全装置、表面処理方法(被膜厚・塗膜厚)、 塗装方法、防食・防錆の方法、色調、加工・組立の順序・工法、保管方法
		施 工	仕上げの程度、性能、精度の目標
		検査・試験	受入検査の方法、工程内検査の方法、社内検査責任者と合否判定基準、 監督員検査の方法(時期・項目)
		報 告	材料搬入報告・施工報告書の項目・内容
安全衛生対策	火災防止、製品の倒壊・落下防止		
	工 法(施工要領)	運搬・仮置方法、防火戸の種別、取付け方法、塗装方法、養生方法(保護)、清掃方法	
施 工 図	シャッター位置図	位置、種類、防火区画、防煙区画	
	シャッターリスト	形状、寸法、数量、錠前	
	製作図	形状・寸法、補強材・金物類及びその取付位置、取付け方法、 取付け高さ、重量・施錠方法、重量・形式及び機構、 関連工事及び各仕上げとの取合い	

16. 塗装工事

区分		記載事項	
施工計画書	工程表	色見本提出時期、材料(色調を含む)決定時期、施工時期、検査の種類と時期	
	品質計画	現場組織	施工業者名、作業の管理組織、安全衛生組織、
		材料	塗料の種類別、施工箇所、製造所名、規格、色調、つや、防火材料の指定又は認定、防かび剤、ホルムアルデヒド放散量、研磨紙の規格、材料の品質確認方法
		施工	仕上げの程度、性能、精度の目標
		検査・試験	受入検査の方法、工程内検査の方法、社内検査責任者と合否判定基準、使用量確認・各工程養生期間確認・監督員検査の方法(時期・項目)
		報告	材料搬入報告・施工報告書の項目・内容
	安全衛生対策	火災対策、換気対策、保管方法、洗浄液・使用済缶の処理、外部への悪臭、近隣・入居者等への配慮	
工法(施工要領)	見本塗板の作成、施工範囲、工場塗り範囲、塗装の種類・工程・塗布量又は膜厚、仕様・色調管理表、研磨・パテかい・パテしごき・素地ごしらえの方法、工法(はけ・吹付・ローラー)区分、中塗り・上塗りの色分け、養生方法		

17. 内装工事

【ビニル床シート、ビニル床タイル、ゴム床タイル張り】

区分		記載事項	
施工計画書	工程表	材料決定(見本提出)時期、施工箇所ごとの施工時期、検査の種類と時期	
	品質計画	現場組織	施工業者名、作業の管理組織、安全衛生組織
		材料	施工箇所毎：使用材料名・製造所名・規格・種類・寸法・厚さ・材質・色調・記号・性能(帯電防止・視覚障害者用・耐動荷重性) 接着剤(種類・配合・ホルムアルデヒド放散量)、材料の品質確認方法
		施工	仕上げの程度、性能、精度の目標
		検査・試験	受入検査の方法、工程内検査の方法、社内検査責任者と合否判定基準、使用量確認、監督員検査の方法(時期・項目)
		報告	材料搬入報告、施工報告書の項目・内容
	安全衛生対策	火気対策、換気対策	
工法(施工要領)	下地処理、表面仕上げ、接着剤の種類、割付け、接合方法、見切り部分の納まり、養生方法(保護)		
施工図	割付図	割付け、模様合せ(継目位置)	
	各部詳細図	隅部、柱回り、設備器具取合い、他の仕上材との取合い、点検口の納まり、防火・防煙区画の処理	

【フローリング張り】

区分		記載事項		
施工計画書	工程表	材料決定(見本提出)時期、施工時期、検査の種類と時期		
	品	現場組織	施工業者名、作業の管理組織、安全衛生組織	
		質	材 料	施工箇所、使用材料名、製造所名、種類、規格、寸法、板厚、材質、色調、ホルムアルデヒド放散量、裏面処理、釘類及び接着剤の種類、材料の品質確認方法
			施 工	仕上げの程度、性能、精度の目標
		検査・試験	受入検査の方法、工程内検査の方法、社内検査責任者と合否判定基準、監督員検査の方法(時期・項目)	
		報 告	材料搬入報告、施工報告書の項目・内容	
		安全衛生対策	火気対策、換気対策	
工 法(施工要領)	下地処理、表面仕上げ、割付け、見切り部、壁との納まり、工法(釘留め工法、接着工法、モルタル埋込工法)、養生方法(保護)			
施工図・割付図		割付け、模様合せ		

【カーペット敷き】

区分		記載事項		
施工計画書	工程表	材料決定(見本提出)時期、施工時期、検査の種類と時期		
	品	現場組織	施工業者名、作業の管理組織、安全衛生組織	
		質	材 料	使用箇所、使用材料名、品質、密度、製造所名、種別、規格、寸法、厚さ、防炎性能、帯電性、防虫加工、保管方法、取付用付属品 接着剤の種類(ホルムアルデヒド放散量)、材料の品質確認方法
			施 工	仕上げの程度、性能、精度の目標
		検査・試験	受入検査の方法、工程内検査の方法、社内検査責任者と合否判定基準、監督員検査の方法(時期・項目)	
		報 告	材料搬入報告、施工報告書の項目・内容	
		安全衛生対策	火気対策、換気対策	
工 法(施工要領)	下地処理、工法、接合方法、カーペットの種類、下地・工法に応じた管理方法、敷き方(市松張り、流し張り等)、割付け要領(継目位置等)、各部取合い(他の仕上材・点検口、設備機器)、養生方法(保護)			
施工図・割付図		割付け(継目位置)、模様合せ		

【合成樹脂塗り床】

区分		記載事項	
施工計画書	工程表	見本提出、色調決定時期、施工箇所毎の施工時期、検査の種類と時期	
	品	現場組織	施工業者名、作業の管理組織、安全衛生組織
		材料	使用箇所、使用材料名、製造所名、種類、規格、色調、材質、配合 材料の品質確認方法、保管方法
		施工	仕上げの程度、性能、精度の目標
		検査・試験	受入検査の方法、工程内検査の方法、社内検査責任者と合否判定基準、 使用量確認、監督員検査の方法（時期・項目）
		報告	材料搬入報告、施工報告書の項目・内容
		安全衛生対策	火気対策、換気対策
工法(施工要領)	下地処理、室別・場所別の工法（表面仕上り状態：平滑・防滑・艶消し）、 施工工法（流しのべ、樹脂モルタル等）、プライマーの種類、使用量、 施工環境(気温、湿度、結露、じんあい)、見切り部分納まり、養生方法(保護)		
施工図	各部詳細図	隅部、柱・幅木回り、設備器具取合い、他の仕上げとの取合い、 点検口の納まり	

【畳敷き】

区分		記載事項	
施工計画書	工程表	材料決定(見本提出)時期、施工時期(採寸・製作・敷込み)、検査の種類と時期	
	品	現場組織	施工業者名、作業の管理組織、安全衛生組織
		材料	施工箇所、使用材料の材質（畳表、畳床、へり）、寸法、製造所名、 保管方法、材料の品質確認方法
		施工	仕上げの程度、性能、精度の目標
		検査・試験	受入検査の方法、工程内検査の方法、社内検査責任者と合否判定基準、 監督員検査の方法（時期・項目）
		報告	材料搬入報告、施工報告書の項目・内容
		安全衛生対策	火気対策
工法(施工要領)	搬入計画、敷込み、養生方法(保護)		
施工図		室別畳割り、隅部等取合いの納まり	

【せっこうボード、その他ボード、合板張り】

区分		記載事項	
施工計画書	工程表	材料決定（見本提出）時期、施工箇所ごとの施工時期、検査の種類と時期	
	品 質 計 画 書	現場組織	施工業者名、作業の管理組織、安全衛生組織
		材料	施工箇所毎：使用材料名、製造所名、種類、寸法、厚さ、材質、色調、規格（防火性能、ホルムアルデヒド放散量）、釘類（材質、長さ等）、接着剤（種類・配合・ホルムアルデヒド放散量）、材料の品質確認方法
		施工	仕上げの程度、性能、精度の目標
		検査・試験	受入検査の方法、工程内検査の方法、社内検査責任者と合否判定基準、監督員検査の方法（時期・項目）
		報告	材料搬入報告、施工報告書の項目・内容
		安全衛生対策	火気対策、換気対策
工法(施工要領)	下地処理、表面仕上げ、接着剤の種類、割付け、目地(継目処理・突付け・目透かし)、見切り部分の納まり、養生方法(保護)		
施工図	割付図	割付け、模様合せ（継目位置）	
	各部詳細図	出隅・入隅納まり、柱回り、設備器具取合い、各部取合い(出入り口・窓)、他の仕上材との取合い、点検口の納まり、防火・防煙区画の処理	

【壁紙張り・断熱・防露】

区分		記載事項	
施工計画書	工程表	材料決定(見本提出)時期、施工箇所ごとの施工時期、検査の種類と時期	
	品 質 計 画 書	現場組織	施工業者名、作業の管理組織、安全衛生組織
		材料	施工箇所毎：使用材料名・製造所名、種別、性能・規格(防火性能、ホルムアルデヒド放散量)、材料の品質確認方法 接着剤(種類・配合・ホルムアルデヒド放散量)、保管方法、寸法・厚さ・材質（断熱・防露のみ）
		施工	仕上げの程度、性能、精度の目標
		検査・試験	受入検査の方法、工程内検査の方法、社内検査責任者と合否判定基準、接着性能試験、監督員検査の方法（時期・項目）
		報告	材料搬入報告・施工報告書の項目・内容
		安全衛生対策	火気対策(火気厳禁の表示等～断熱・防露のみ)、換気対策
工法 (施工要領)	壁紙	素地ごしらえ、継目処理、見切り部分の納まり、養生方法(保護)	
	断熱・防露	(打込み)型枠への取付け方法、コンクリート打込み時の留意点、損傷等の処置 (現場発泡)断熱材製造所の仕様、厚みの確認、細部の施工方法	

18. ユニット及びその他工事（プレキャストコンクリート工事・間知ブロック積み等）

区分		記載事項	
施工計画書	工程表	現場計測時期、施工図作成時期、材料決定時期、製作・搬入時期、取付施工時期、検査の種類と時期	
	品 質 計 画	現場組織	施工業者名、製造所名、作業の管理組織、安全衛生組織
		材 料	使用箇所、使用材料、材質、形状、規格、開閉機構、防災性能、色、柄 【PC】使用箇所、使用材料（規格）、鉄筋・鉄線・溶接金網、取付金物
		施 工	仕上げの程度、性能、精度の目標
		検査・試験	受入検査の方法、工程内検査の方法、社内検査責任者と合否判定基準、監督員検査の方法（時期・項目）
		報 告	材料搬入報告、施工報告書の項目・内容
		安全衛生対策	足場の安全性、落下防止
工 法(施工要領)	設置工法、取付金物の取付け方法、仕上り性能、開閉機構、養生方法（保護） 【PC】コンクリート材料及び調合、調合強度、配筋方法、 取付金物取付方法、型枠の材料・組み方、養生時間・温度 【間知】間知石積みの工法、コンクリート間知ブロック積みの工法		
施工図	製作図・取付け図	位置、種類、形状、取付方法、納まり、開閉方式 【PC】寸法、配筋、継手、定着、取付金物、数量、かぶり厚さ、取付方法	
	配置、横断、 立面、詳細図	【間知】位置、高さ、形状、材質、水抜き処理、勾配	

19. 各種メーカー仕様工事

区分		記載事項	
施工計画書	工程表	施工図作成時期、施工時期、検査の種類	
	品 質 計 画	現場組織	施工業者名、作業の管理組織、安全衛生組織
		材 料	材料の品質確認方法、配合条件
		施 工	性能、精度の目標
		検査・試験	受入検査の方法、工程内検査の方法、社内検査責任者と合否判定基準、監督員検査の方法（時期・項目）
		報 告	材料搬入報告、施工報告書の項目・内容
		安全衛生対策	機械の転倒防止処置、騒音・振動等の防止対策
工 法(施工要領)	施工方法、施工機械の仕様概要及び性能、 位置・寸法・形状の確認方法、		
施工図	納まり等		

20. 排水・舗装工事

区分		記載事項	
施工計画書	工程表	施工図作成時期、材料決定時期、施工箇所ごとの施工時期、検査の種類と時期、通水試験等の時期	
	品質計画	現場組織	施工業者名、作業の管理組織、安全衛生組織
		材料	舗装：使用材料名、アウファルト混合物の配合、再生材の使用 施工箇所、材種、形状、寸法、製造所、規格、強度等、材料の品質確認方法
		施工	仕上げの程度、性能、精度の目標
		検査・試験	受入検査の方法、工程内検査の方法、社内検査責任者と合否判定基準、監督員検査の方法（時期・項目）
		報告	材料搬入報告、施工報告書の項目・内容
		安全衛生対策	舗装：重機・騒音・飛散防止・道路汚染対策 山留め管理、安全通路、重機との分離措置、重機の点検整備管理
	排水工法(施工要領)	掘削方法、山留め方法、埋戻し方法、排水管・排水柵敷設・接続方法、発生土処理方法、コンクリート調合及び打込み工法、養生方法(保護・転落防止)	
舗装工法(施工要領)	舗装の構造、施工機械、目地割り及び目地の構造、舗装工法、寒冷期の舗装、発生土処理方法、養生方法（保護） 路床の不良土・障害物の処置、締固め方法		
施工図	平面図・断面図	排水管：位置・深さ・勾配・径・材質 排水柵：位置・深さ・仕上げ高さ・泥溜り高さ・蓋の仕様 既存工作物・他工事埋設物との取合い	
	舗装施工図・平断面	舗装の種類、層構成、勾配、高さ、目地、縁石等の位置、排水勾配の確保	
	各部詳細図	標準断面、各部納まり、排水柵（構造・形状）他工事との取合い、	

21. 改修工事

【防水改修】

区分		記載事項	
施工計画書	工程表	施工箇所ごとの防水種類別施工時期、検査の種類と時期	
	品質計画	現場組織	施工業者名、作業の管理組織、安全衛生組織 一級防水施工技能士《5,000 m ² 以上の場合》
		製品・材料	使用箇所、使用材料名、規格、種類、製造所名、取扱い、保管方法、製品・材料の品質確認方法
	施工	仕上げの程度、性能、精度の目標	
	検査・試験	受入検査の方法、工程内検査の方法、社内検査責任者と合否判定基準、使用量確認、監督員検査の方法（時期・項目）	
	報告	材料搬入報告、施工報告書の項目・内容	
	安全衛生対策	足場の安全性、落下防止、火気対策	
	工法(施工要領)	既設調査、改修方針、 工事中の漏水対策、施工範囲及び防水層の種類、 既存保護層、既存防水層の撤去、ルーフトレン回りの処理、 既存下地の補修及び処置、排水勾配、材料等置き場、 エキスパンションジョイント部分の改修、 新設防水工法『9. 防水工事』による異種防水層接続部の処置、養生方法	
施工図	各部詳細、納まり等		

【外壁改修】

区分		記載事項	
施工計画書	工程表	施工箇所ごとの施工時期、検査の種類と時期、見本提出・決定時期	
	品質計画	現場組織	施工業者名、作業の管理組織、安全衛生組織
		製品・材料	使用箇所、使用材料名、規格、種類、材質、性能、塗料等使用量、製品・材料の品質確認方法
	施工	仕上げの程度、性能、精度の目標	
	検査・試験	受入検査の方法、工程内検査の方法、社内検査責任者と合否判定基準、使用量確認、監督員検査の方法（時期・項目）	
	報告	材料搬入報告、施工報告書の項目・内容	
	安全衛生対策	足場の安全性、落下防止、火気対策、近隣・入居者等への配慮	
	工法(施工要領)	既設調査、改修方針、改修工法（工法種別、施工箇所・面積、使用する機器・器具類）、養生方法（施工中及び完了後）、ひび割れ・浮き・欠損の確認及び補修方法、下地調整・下地処理、改修塗り仕上工法、目地改修 その他『9. 防水工事【シーリング】、10. タイル工事、14. 左官工事、16. 塗装工事』等による	

【建具改修】

区分		記載事項	
施工計画書	工程表	施工図作成時期、製品製作、搬入時期、取付け時期、検査の種類と時期	
	品	現場組織	施工業者名、作業の管理組織、安全衛生組織
		製品・材料	使用箇所、使用材料名、規格、種類、材質、形状、寸法、性能、付属部品、製品・材料の品質確認方法
	計画	施工	取付け精度
		検査・試験	受入検査の方法、工程内検査の方法、社内検査責任者と合否判定基準、監督員検査の方法（時期・項目）
		報告	材料搬入報告、施工報告書の項目・内容
	安全衛生対策	足場の安全性、落下防止、火気対策	
工法(施工要領)	改修工法、納まり、養生方法、防食・防錆処理、撤去方法、下地処理 新設建具設置『15. 建具工事』による		
施工図		製作図、各部詳細図	

【内装改修】

区分		記載事項	
施工計画書	工程表	施工箇所ごとの施工時期、検査の種類と時期	
	品	現場組織	施工業者名、作業の管理組織、安全衛生組織、
		材料	使用材料名、使用材料名、規格、種類、材質、形状、寸法、性能、製品・材料の品質確認方法
	計画	施工	仕上げの程度、性能、精度の目標
		検査・試験	受入検査の方法、工程内検査の方法、社内検査責任者と合否判定基準、化学物質測定バッチ試験(学校環境衛生基準)：ホルムアルデヒド $100\mu\text{g}/\text{m}^3$ 以下等 監督員検査の方法（時期・項目）
		報告	材料搬入報告・施工報告書の項目・内容
	安全衛生対策	墜落防止・、火気・換気対策	
工法 (施工要領)	既設撤去方法、下地調整・下地処理、改修工法、納まり、養生方法、その他『17. 内装工事』による		

【塗装改修】

区分		記載事項	
施工計画書	工程表	色見本提出時期、材料(色調を含む)決定時期、施工箇所ごとの施工時期、検査の種類と時期	
	品質計画	現場組織	施工業者名、作業の管理組織、安全衛生組織、
		製品・材料	塗料の種別、使用箇所、製造所名、規格、色調、つや、 防火材料の指定又は認定、防かび剤、ホルムアルデヒド放散量、 研磨紙の規格、材料の品質確認方法
		施工	仕上げの程度、性能、精度の目標
		検査・試験	受入検査の方法、工程内検査の方法、社内検査責任者と合否判定基準、 塗布量確認、各工程養生期間確認、監督員検査の方法(時期・項目)
		報告	材料搬入報告・施工報告書の項目・内容
		安全衛生対策	足場の安全性、落下防止、火気対策、換気対策、保管方法、 洗浄液・使用済缶の処理、外部への悪臭、近隣・入居者等への配慮
工法(施工要領)	下地の状態確認、下地調整・下地処理、その他『16. 塗装工事』による		

【あと施工アンカー】

区分		記載事項	
施工計画書	工程表	施工箇所ごとの施工時期、検査の種類と時期	
	品質計画	現場組織	施工業者名、作業の管理組織、安全衛生組織、 施工管理技術者(あと施工アンカー)、技能者
		製品・材料	製品・材料の品質確認方法
		施工	仕上げの程度、性能、精度の目標
		検査・試験	受入検査の方法、工程内検査の方法、社内検査責任者と合否判定基準、 引張試験機による引張試験・確認強度、監督員検査の方法(時期・項目)
		報告	材料搬入報告・施工報告書の項目・内容
		安全衛生対策	足場の安全性、落下防止
工法 (施工要領)	鉄筋等の探査、穿孔深さ、穿孔孔の清掃、穿孔時の排水処理、 アンカーの埋込み深さ確認方法、上向き作業の場合の方法、養生方法		

2.2. 電気設備工事

【電力設備工事（配管・配線、架空配線、地中配線）】

区分		記載事項	
施工計画書	工程表	関連工事の施工時期、施工図の作成時期、関連工事との調整、工期、 施工時期（準備・機材搬出入・施工・清掃・養生・工程内検査）、 本受電時期、試運転調整時期、各種検査時期 埋込配管・スリーブ仮枠入れ、インサート取付け	
	品質計画	現場組織	施工者名、製造者名、作業の管理組織、作業主任者 技術資格者、消防設備士等の確認（等級の確認）
		機器及び材料	材料名、製造所名、規格、品質、性能、数量、 種類、材質、色、形状、寸法、機材の品質確認方法
		施工	性能、施工精度の目標
		機材の試験	試験機材、試験方法、試験成績書の提出、試験代替証明
		施工の試験	試験時期、試験方法（絶縁抵抗・絶縁耐力等）、試験機器、 合否判定基準(管理値)
		検査	材料・機材の受入検査・施工管理検査の方法、 社内検査責任者と合否判定基準、 監督員検査の方法（時期・項目）、測定機器の校正方法
		報告	材料搬入報告、施工報告書の項目・内容
工法(施工要領)	工法、現場施工要領、施工状況の確認方法、 当該工種の施工にあたっての着手条件・作業条件・工期		
施工図	配管配線図	設計図書との整合性、 他工事との取合い(ダクト・機械設備工事・建築工事他)、 防火・防煙区画との整合性、支持方法	

【電力設備工事（電灯、動力、電熱、雷保護）】

区分		記載事項	
施工計画書	工程表	関連工事の施工時期、施工図の作成時期、関連工事との調整、工期、 施工時期（準備・機材搬出入・施工・清掃・養生・工程内検査）、 本受電時期、試運転調整時期、各種検査時期 埋込配管・スリーブ仮枠入れ、インサート取付け	
	品質計画	現場組織	施工者名、製造者名、作業の管理組織、作業主任者、技術資格者
		機器及び材料	材料名、機材名、製造所名、規格、型番、 品質、性能、数量、種類、材質、色、形状、寸法、機材の品質確認方法
		施工	性能、施工精度の目標
		機材の試験	試験機材、試験方法、試験成績書の提出、試験代替証明
		施工の試験	試験時期、試験方法（絶縁抵抗・絶縁耐力等）、試験機器、 合否判定基準（管理値）
			【分電盤、〇A盤、実験盤、開閉器箱】（全数） 外観試験、構造試験、シーケンス試験
			【照明器具】点灯試験（全数）
【照明制御装置】総合動作試験（全数）			
【非常用照明装置】照度測定			
【コンセント】極性試験（全数）			
【制御盤】外観、構造、シーケンス、動作特性試験（全数）			
【動力設備】電動機の回転方向又は相回転、機器の発停、 連動・インターロック、限時継機器及び保護継電器の整定、 電流計赤指針の設定、警報回路の動作			
【発熱線等】導通試験、絶縁抵抗試験			
【防火区画貫通の耐火処理工法】関係法令による耐火性能の証明			
検査	材料・機材の受入検査・施工管理検査の方法、 社内検査責任者と合否判定基準、 監督員検査の方法（時期・項目）、測定機器の校正方法		
報告	材料搬入報告、施工報告書の項目・内容		
工法(施工要領)	工法、現場施工要領、施工状況の確認方法、 当該工種の施工にあたっての着手条件・作業条件・工期		
施工図	設計図書との整合性、他工事との取合い、 作業・保守点検空間の確保（埋込形照明器具の位置ボックス等）、 支持方法		

【受変電設備】

区分		記載事項	
施工計画書	工程表	関連工事の施工時期、施工図の作成時期、関連工事との調整、工期、施工時期（準備・機材搬出入・施工・清掃・養生・工程内検査）、本受電時期、試運転調整時期、各種検査時期	
	品質計画	現場組織	施工者名、製造者名、作業の管理組織、作業主任者、技術資格者
		機器及び材料	材料名、機材名、製造所名、製造所住所、取扱代理店、規格、型番、品質、性能、数量、種類、材質、形状、寸法、機材の品質確認方法
		施工	性能、施工精度の目標
		機材の試験	試験機材、試験方法、試験成績書の提出、試験代替証明
		施工の試験	試験時期、試験機器、合否判定基準(管理値) 試験方法(構造・絶縁抵抗・耐電圧・継電器特性・総合動作・接地抵抗等
		検査	材料・機材の受入検査・施工管理検査の方法、社内検査責任者と合否判定基準、監督員検査の方法（時期・項目）、測定機器の校正方法
		報告	材料搬入報告、施工報告書の項目・内容
工法(施工要領)	工法、現場施工要領、施工状況の確認方法、当該工種の施工にあたっての着手条件・作業条件・工期		
施工図	製作図	製造業者名、仕様、寸法、種類、その他	
	配管配線図	設計図書との整合性、作業・保守点検空間の確保、支持方法	

【通信・情報設備】

区分		記載事項	
施工計画書	工程表	関連工事の施工時期、施工図の作成時期、関連工事との調整、工期、施工時期（準備・機材搬出入・施工・清掃・養生・工程内検査）、本受電時期、試運転調整時期、各種検査時期	
	品質計画	現場組織	施工者名、製造者名、作業の管理組織、作業主任者、技術資格者、消防設備士等の確認（等級の確認）
		機器及び材料	材料名、機材名、製造所名、製造所住所、取扱代理店、規格、型番、品質、性能、数量、種類、材質、形状、寸法、機材の品質確認方法
		施工	性能、施工精度の目標
		機材の試験	試験機材、試験方法、試験成績書の提出、試験代替証明
		施工の試験	試験時期、試験方法（絶縁抵抗等）、試験機器、合否判定基準（管理値）
		検査	材料・機材の受入検査・施工管理検査の方法、社内検査責任者と合否判定基準、監督員検査の方法（時期・項目）、測定機器の校正方法
		報告	材料搬入、施工報告書の項目・内容
工法(施工要領)	工法、現場施工要領、施工状況の確認方法、当該工種の施工にあたっての着手条件・作業条件・工期		
施工図	製作図	製造業者名、仕様、寸法、種類、その他	
	配管配線図	設計図書との整合性、他工事との取合い、作業・保守点検空間の確保、防火・防煙区画との整合性、支持方法	

23. 機械設備工事

【配管】

区分		記載事項	
施工計画書	工程表	<p>関連工事との整合性、施工図の作成時期、</p> <p>施工時期(準備・前工程確認・仮設・段取・機材搬出入・スリーブ施工・配管・機器等取付け時期、据付・清掃・養生・工程内検査・次工程への引継)、</p> <p>給水本設時期、試運転調整時期、各種検査時期(受注者・監督員共)</p>	
	品質	<p>現場組織</p> <p>施工業者(主任技術者・担当者)名、作業の管理組織、作業主任者、技能資格者(溶接等)、技術資格者(消防設備士等(等級の確認))</p>	
	計画	機材	<p>使用機材名、使用箇所、商品名、規格、品質、性能、数量、種類、材質、型番、色、形状、寸法、耐震性能、機材の品質確認方法</p>
		施工	<p>性能、施工精度の目標</p>
		機材の試験	<p>試験機材、試験方法、試験成績書の提出、試験代替証明</p>
		施工の試験	<p>試験時期、試験方法、試験機器、</p> <p>合否判定基準(管理値)</p>
		検査	<p>材料・機材の受入検査・施工管理検査の方法、</p> <p>社内検査責任者と合否判定基準、</p> <p>監督員検査の方法(時期・項目)、測定機器の校正方法</p>
		報告	<p>材料搬入、施工報告書の項目・内容</p>
	工法(施工要領)	<p>材料等の運搬方法・保管方法・養生方法、発生材処理方法、</p> <p>配管の接続方法(ねじ・フランジ・溶接等)</p> <p>勾配、支持方法(耐震・防振)、</p> <p>防火・防煙区画等の貫通部処理方法、防錆方法</p> <p>はり貫通孔・壁型枠孔等及びその補強、電気配管・配線</p> <p>足場の種類・楊重計画等、資材の保管場所・保管方法</p> <p>既存施設部分・工事目的物の施工済み部分の養生方法</p> <p>使用機械工具の確認、表示事項</p>	
施工図等	配管図	<p>設計図書との整合性、他工事との取合い(ダクト・電気工事・建築工事他)</p> <p>作業・保守点検空間の確保(継手・ボルト・ナット等の締付、</p> <p>バルブ・ストレーナの保守)、</p> <p>防火・防煙区画との整合性、支持方法・勾配の確保</p>	

【空気調和設備】

区分		記載事項	
施工計画書	工程表	<p>関連工事との整合性、施工図の作成時期、</p> <p>施工時期(準備・前工程確認・仮設・段取・製作・機材搬出入・スリーブ施工・配管・機器等取付け時期、据付・清掃・養生・工程内検査・次工程への引継)、給水本設時期、試運転調整時期、各種検査時期(受注者・監督員共)</p>	
	品質	<p>施工業者(主任技術者・担当者)名、作業の管理組織、作業主任者、技能資格者(溶接等)</p>	
	計画	機材	<p>使用機材名、使用箇所、製造所名、規格、性能、数量、型番、色、材料名、種類、材質、形状、寸法、耐震性能、機材の品質確認方法</p>
		施工	<p>性能、施工精度の目標</p>
		機材の試験	<p>試験機材、試験方法、試験成績書の提出、試験代替証明</p>
		施工の試験	<p>試験時期、試験方法、試験機器、合否判定基準(管理値)</p>
		検査	<p>材料・機材の受入検査・施工管理検査の方法、社内検査責任者と合否判定基準、監督員検査の方法(時期・項目)、測定機器の校正方法</p>
		報告	<p>材料搬入、施工報告書の項目・内容</p>
	工法(施工要領)	<p>材料等の運搬方法・保管方法・養生方法、発生材処理方法、配管の接続方法(ねじ・フランジ・溶接等)</p> <p>勾配、支持方法(耐震・防振)、</p> <p>防火・防煙区画等の貫通部処理方法、防錆方法</p> <p>はり貫通孔・壁型枠孔等及びその補強、電気配管・配線</p> <p>足場の種類・楊重計画等、資材の保管場所・保管方法</p> <p>既存施設部分・工事目的物の施工済み部分の養生方法</p> <p>使用機械工具の確認</p> <p>表示事項</p>	
施工図等	製作図	<p>製造業者名、仕様、性能(計算書)、寸法、種類、付属品</p>	
	配管図	<p>設計図書との整合性、他工事との取合い(ダクト・電気工事・建築工事他)、作業・保守点検空間の確保防火・防煙区画との整合性、支持方法</p>	

【自動制御設備】

区 分		記 載 事 項	
施 工 計 画 書	工程表	関連工事との整合性、施工図の作成時期、 施工時期(準備・前工程確認・段取・製作・機材搬出入・機器等取付け時期、 据付・清掃・養生・工程内検査・次工程への引継)、試運転調整時期、 各種検査時期(受注者・監督員共)	
	品 質 計 画	現場組織	施工業者(主任技術者・担当者)名、製作及び作業の管理組織、 作業主任者
		機 材	使用機材名、使用箇所、製造所名、規格、性能、数量、型番、色、 材料名、種類、材質、形状、寸法、耐震性能、機材の品質確認方法
		機材の試験	試験機材、試験方法、試験成績書の提出、試験代替証明
		施工の試験	試験時期、試験方法、合否判定基準(管理値)
		検 査	材料・機材の受入検査・施工管理検査の方法、 社内検査責任者と合否判定基準、 監督員検査の方法(時期・項目)、測定機器の校正方法
		報 告	材料搬入、施工報告書の項目・内容
工 法(施工要領)	材料等の運搬方法・保管方法・養生方法、発生材処理方法、 施工方法、表示事項		
施 工 図	製作図	製造業者名、仕様、性能(計算書)、寸法、種類、付属品	
	配管図	設計図書との整合性	

【給排水衛生設備】

区 分		記 載 事 項
施 工 計 画 書	工程表	関連工事との整合性、施工図の作成時期、 施工時期(準備・前工程確認・仮設・段取・製作・機材搬出入・ スリーブ施工・配管・機器等取付け時期、 据付・清掃・養生・工程内検査・次工程への引継)、 給水本設時期、試運転調整時期、各種検査時期(受注者・監督員共)
	品質	現場組織 施工業者(主任技術者・担当者)名、製作及び作業の管理組織、 作業主任者
	計画	機 材 使用機材名、使用箇所、製造所名、規格、性能、数量、型番、色、材料名、 種類、材質、形状、寸法、耐震性能、機材の品質確認方法
		施 工 性能、施工精度の目標
		機材の試験 試験機材、試験方法、試験成績書の提出、試験代替証明
		施工の試験 試験時期、試験方法(満水・水圧・気密・耐圧等)、試験機器、 合否判定基準(管理値)
		検 査 材料・機材の受入検査・施工管理検査の方法、 社内検査責任者と合否判定基準、 監督員検査の方法(時期・項目)、測定機器の校正方法
		報 告 材料搬入、施工報告書の項目・内容
	工 法(施工要領) 材料等の運搬方法・保管方法・養生方法、発生材処理方法、施工方法	
施 工 図	製作図	製造業者名、仕様、性能(計算書)、寸法、種類、付属品
	配管図	設計図書との整合性、他工事との取合い、バルブ・ストレーナの保守

【浄化槽設置】

区分		記載事項	
施工計画書	工程表	関連工事との整合性、施工図の作成時期、浄化槽設置届提出時期、 施工時期(準備・前工程確認・仮設・段取・製作・機材搬出入・配管・ 機器等取付け時期、据付・清掃・養生・工程内検査・次工程への引継)、 試運転調整時期、各種検査時期(受注者・監督員共)	
	品質	施工業者(主任技術者・担当者)名、製作及び作業の管理組織、 作業主任者、浄化槽設備士	
	計画	機材	使用機材名、使用箇所、製造所名、規格、性能、数量、型番、色、材料名、 種類、材質、形状、寸法、耐震性能、機材の品質確認方法
		施工	性能、施工精度の目標
		機材の試験	試験機材、試験方法、試験成績書の提出、試験代替証明
		施工の試験	試験時期、試験方法、試験機器、合否判定基準(管理値)
		検査	材料・機材の受入検査・施工管理検査の方法、 社内検査責任者と合否判定基準、 監督員検査の方法(時期・項目)、測定機器の校正方法
		報告	材料搬入、施工報告書の項目・内容
	工法(施工要領)	機材等の運搬方法・保管方法・養生方法、発生材処理方法、 電気配管・配線、勾配、表示事項、 既存施設部分・工事目的物の施工済み部分の養生方法、 その他必要に応じて『1. 仮設工事』、『3. 土工事』、『4. 地業工事』、 『5. 鉄筋工事』、『6. コンクリート工事』、『9. 防水工事』、 『19. 排水工事』等 参照	
施工図	製造業者名、仕様、性能(計算書)、寸法、種類、付属品、機材納まり、 排気管勾配・位置・高さ、設計図書との整合性、他工事との取合い、 作業・保守点検空間の確保		

【機器取付】

区分		記載事項	
施工計画書	工程表	関連工事との整合性、施工図の作成時期、 施工時期(準備・前工程確認・仮設・段取・製作・機材搬出入・配管・ 機器等取付け時期、据付・清掃・養生・工程内検査・次工程への引継)、 試運転調整時期、各種検査時期(受注者・監督員共)	
	品質計画	現場組織	施工業者(主任技術者・担当者)名、製作及び作業の管理組織、作業主任者
		資材	材料名、製造所名、種類、規格、性能、数量、材質、耐震性能、 材料の品質確認方法
		施工	性能、施工精度の目標
		機材の試験	試験機材、試験方法、試験成績書の提出、試験代替証明
		施工の試験	試験時期、試験方法、試験機器、合否判定基準(管理値)
		検査	材料・機材の受入検査・施工管理検査の方法、 社内検査責任者と合否判定基準、 監督員検査の方法(時期・項目)、測定機器の校正方法
		報告	材料搬入、施工報告書の項目・内容
工法(施工要領)	機材等の運搬方法・保管方法・養生方法、発生材処理方法、 施工方法、揚重計画、搬入経路、 その他『5 鉄筋工事』、『6 コンクリート工事』参照		
施工図	製作図	製造業者名、仕様、性能(計算書)、寸法、種類、付属品	
	配管図	設計図書との整合性、他工事との取合い	